

## 看護学科 2023 年度授業について（カリキュラム）

### 【目次】

- ・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー
- ・ナンバリングの基本方針
- ・カリキュラム表（2022 年度以後入学生）
- ・科目の概要（2022 年度以後入学生）
- ・履修系統図（2022 年度以後入学生）
- ・履修モデル（2022 年度以後入学生）
- ・カリキュラム表（2016 年度～2021 年度入学生）
- ・科目の概要（2016 年度～2021 年度入学生）
- ・履修系統図（2016 年度～2021 年度入学生）
- ・履修モデル（2016 年度～2021 年度入学生）
- ・学事日程
- ・東京医療学院大学 履修に関する規程

### 補足資料

- ・特別開講科目一覧

# 東京医療学院大学

令和4年4月1日 学長裁定

## 看護学科のディプロマ・ポリシー

東京医療学院大学は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

看護学科（以下、Ns）：看護学科は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

1. 【DP1】人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

Ns：人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

①大学：人体の構造としくみを説明できる。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理について自身の考えを述べられる。Ns：人と社会を理解し、幅広い側面から生命の価値を理解できる。

②大学：疾病を理解し、運動機能の回復あるいは生活の自立などへ応用するための基礎知識を説明できる。Ns：人と社会を理解し、幅広い側面から生命倫理について自己の考えを述べるができる。

③大学：各専門の学問を発展させて統合し、治療あるいは生活支援の科学的根拠を説明できる。Ns：各専門の学問を発展させて統合し、対象者を尊重した生活支援ができる。

④大学：対象者に尊厳をもって接し、学修した知識を活かした取り組みができる。Ns：対象者に尊厳をもって接し、対象者を尊重した看護実践ができる。

2. 【DP2】人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

Ns：人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

①大学：人及び疾病や障害を抱える者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。Ns：人が病と対峙する過程の心理について推察し、援助を考えることができる。

②大学：臨床・臨地における見学体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。Ns：臨地実習での体験を通し対象者に相応しい態度を取ることができる。

③大学：対象者の日常生活活動の困難さを理解し、基本的な支援ができる。Ns：人の身体的状態、心理的状态、社会的状態を理解し、生活を自立させるために必要な基礎的知識を説明できる。

④大学：対象者の立場をプラスの側面を含めて理解し、指導者のもとで社会復帰あるいはその人らしい生活の構築に向けた支援ができる。Ns：対象者の苦痛を理解し、対象者の状態にあわせた援助ができる。

3. 【DP3】多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。

Ns：多様な社会を理解し、看護専門職者として保健医療福祉活動に貢献することができる。

①大学：ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して地域の様々な人との交流で

きる。N s : ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して様々な人と交流できる。

②大学: 地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つけることができる。

N s : 地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を説明できる。

③大学: 対象者を生活者としてとらえ、自身が目指す専門職の包括的な在り方を説明できる。

N s : 保健医療福祉活動における看護専門職者として自己の目指す方向性を説明できる。

④大学: 自身が目指す専門職の地域における意義を理解し、実践できる。N s : 社会の様々な場で保健医療福祉活動に貢献する実践力を身につける。

4. 【DP 4】地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

N s : 地域の保健医療福祉の現状を知り、看護専門職者の視点で課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

①大学: 地域の保健・医療・福祉行政の現状と問題点について説明できる。N s : 保健・医療・福祉の現状を理解し、問題点を説明できる。

②大学: 個人及び集団の疾病の原因になる生活・社会・自然環境因子について説明できる。

N s : 個人及び集団の疾病の要因となる生活・社会・環境因子について説明できる。

③大学: 日本の医療及び福祉制度史を踏まえて、医療保険や介護保険制度の意義について説明できる。N s : 日本の医療・福祉制度について国際的な視点から意義と課題を説明できる。

④大学: 専門職として地域で働くイメージを持ち、実現可能性を勘案したうえで具体的に説明できる。N s : 看護専門職者として見出した課題を解決するための具体策を提案できる。

5. 【DP 5】専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

N s : 看護専門職者として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

①大学: 他者との良好なコミュニケーションを図ることができる。N s : 他者と良好なコミュニケーションを図ることができる。

②大学: 臨床・臨地における見学体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。N s : アサーティブなコミュニケーションを実践できる。

③大学: 多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を説明できる。N s : 他職種や対象者と良好なコミュニケーションを図ることができる。

④大学: 多職種と連携し、専門職としての支援に取り組むことができる。N s : 看護専門職者として他職種と連携するコミュニケーションがとれる。

6. 【DP 6】専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

N s : 看護専門職者として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

①大学: スタディスキル及びスチューデントスキルを身につけ実践できる。N s : スタディスキル及びスチューデントスキルを身につけ実践できる。

②大学: 学生同士で協働する学修スキルを身につけ実践できる。N s : 自己の看護実践を振り返り、自己洞察をすることができる。

③大学：臨床実習・臨地実習における指導者の指導の下で対象者への支援を通して学修するスキルを身につけ実践できる。Ns：看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽する必要性を説明できる。

④大学：生涯にわたり学修し自己研鑽するスキルを身につけ取り組むことができる。Ns：看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽し続けるスキルを身につける。

## 看護学科レベルのカリキュラム・ポリシー

建学の精神を実践する専門職を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいて編成します。

N s：看護学科は、建学の精神を実践する専門職者を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいてカリキュラムを編成します。

1. 深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の連携を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

N s：深く人間を理解し教養を高めるために教養科目を学修し、専門基礎科目や専門科目との統合を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

2. 大学の理念を象徴する科目を通して、全ての学生が基盤となる倫理や知識を共有する。

N s：4年間を通して専門職性の基盤となる科目を段階的に学修し、保健医療福祉に携わる看護専門職者に求められる倫理及び思考と実践力を身につける。

3. 基礎から専門科目、演習や実習を系統的に学ぶことによって、理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。

N s：理論と実践の統合を図るために臨地実習を学修し、専門知識に基づく問題解決能力と看護実践能力を身につける。

4. 社会で活躍する職業人に必要な表現力、コミュニケーション能力を身につける。

N s：保健医療の専門職者としてのアイデンティティを確立し、多職種との連携と協働を図りチーム医療を構築するために、人間関係能力を身につける。

5. 演習や実習を通して医療系専門職として必要な態度、習慣を身につける。

N s：地域社会のニーズを踏まえ設置した助産師教育課程を、自己の関心に基づいて選択することができる。

6. 自己の到達レベルを常に意識し、主体的に自己研鑽する姿勢を身につける

N s：学生自身の自立した自己調整学修を促進し、かつ生涯に亘って学修を継続する基盤を身につける。

## 東京医療学院大学 科目ナンバリングの基本方針

本学の科目ナンバリングは英数字7桁で構成され、その授業科目がカリキュラムの中で、どの位置に存在しているかを示すものです。

学部名	学科名	科目区分	配当年次(レベル)	開講期間(レベル2)	管理番号
<b>H</b> 保健医療学部 Faculty of Health Sciences	<b>R</b> リハビリテーション学科 Department of Rehabilitation Sciences	<b>1</b> 教養科目	<b>1</b> 1年次	<b>1</b> 前期・通年	<b>01~</b> 科目区分通し番号
	<b>N</b> 看護学科 Department of Nursing	<b>2</b> 専門基礎科目	<b>2</b> 2年次	<b>2</b> 後期	
		<b>3</b> PT専門科目	<b>3</b> 3年次		
		<b>4</b> OT専門科目	<b>4</b> 4年次		
		<b>5</b> NS専門科目			

例)

①リハビリテーション学科理学療法学専攻「リハビリテーション概論」**HR21125**

→**H** (保健医療学部) + **R** (リハビリテーション学科) + **2** (専門基礎科目)  
**1** (1年次配当) + **1** (前期科目) + **25** (専門基礎科目で25番目の通し番号)

②リハビリテーション学科作業療法学専攻「作業療法学概論」**HR41101**

→**H** (保健医療学部) + **R** (リハビリテーション学科) + **4** (OT専門科目)  
**1** (1年次配当) + **1** (前期科目) + **01** (OT専門科目で1番目の通し番号)

③看護学科「基礎看護学概論」**HN51107**

→**H** (保健医療学部) + **N** (看護学科) + **5** (NS専門科目)  
**1** (1年次配当) + **1** (前期科目) + **07** (NS専門科目で7番目の通し番号)

※リハビリテーション学科に関して、2017年～2019年カリキュラムと2020年～カリキュラムではカリキュラム上の科目区分の通し番号が異なるため、入学年度によって該当のナンバリングが存在します。

※看護学科に関して、2016～2021年カリキュラムと2022年～カリキュラムではカリキュラム上の科目区分の通し番号が異なるため、入学年度によって該当のナンバリングが存在します。

看護学 保健医療学部看護学科(2022年度以降の入学生用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修 選択	ナンバリング	当該科目とDPとの関連																										
					DP1				DP2				DP3				DP4				DP5				DP6						
					①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④			
教養分野	人間の理解	哲学	1	1	HN11101	◎				○																					
	人間の理解	日本近現代史	1	2	HN11102	◎*																									
	人間の理解	文化人類学	2	1	HN12103									◎*																	
	生活と文化	人間の理解	教育学	1	2	HN11204	◎*																								
		生活と文化	コミュニケーション論	1	1	HN11105																	◎								
			生活と文化	家族と社会	2	1	HN12106					◎																			
			生活と文化	法と人権	2	1	HN12207	◎*																							
			生活と文化	生活と経済学	3	1	HN13108	◎*																							
			生活と文化	文化と健康	1	1	HN11209	◎*																							
			生活と文化	東京の中の多摩を知るセミナー	1	1	HN11210									◎*															
			生活と文化	スポーツレクリエーション	1	1	HN11111									◎*								◎*							
			生活と文化	スポーツ医学	2	1	HN12112																	◎*							
			生活と文化	ボランティアワークセミナー	1	1	HN11113									◎								◎							
	人間と環境		人間と環境	生物と進化	1	1	HN11114	◎*																							
		人間と環境	生命科学	1	1	HN11215	◎																								
		人間と環境	物理学	1	1	HN11116	◎*																								
		人間と環境	環境科学	1	1	HN11117									◎*																
	グローバルコミュニケーション	グローバルコミュニケーション	日本語表現	1	1	HN11218																	◎								
		グローバルコミュニケーション	英語 I (読む・書く基礎)	1	1	HN11119																	◎								
		グローバルコミュニケーション	英語 II (医療英語)	2	1	HN12120																	◎								
		グローバルコミュニケーション	英語 III (日常会話)	2	1	HN12221																	◎								
		グローバルコミュニケーション	英語 IV (英語論文読解)	3	1	HN13122																	◎*								
		グローバルコミュニケーション	韓国語 (基礎会話)	4	1	HN14223																	◎*								
		グローバルコミュニケーション	異文化体験セミナー	4	1	HN14124									◎*																
	大学における学び	大学における学び	スタディスキルセミナー	1	1	HN11125																					◎				
		大学における学び	情報リテラシー	1	1	HN11126																					◎				
		大学における学び	情報科学演習	3	1	HN13127													○								◎				
	専門基礎分野	専門基礎科目	専門基礎科目	形態機能学 I	1	2	HN21101	◎																							
			専門基礎科目	形態機能学 II	1	2	HN21102	◎																							
			専門基礎科目	形態機能学 III	1	2	HN21203	◎																							
			専門基礎科目	形態機能学 IV	1	2	HN21204	◎																							
			専門基礎科目	生化学 (栄養学含む)	1	1	HN21105	◎																							
専門基礎科目			病理学	1	1	HN21206	◎																								
専門基礎科目			臨床薬理学	2	2	HN22107	◎																								
専門基礎科目			感染免疫学	1	2	HN21208	◎																								
専門基礎科目			診断・治療学総論	1	1	HN21209	◎																								
専門基礎科目			診断・治療学 I	2	2	HN22110	◎																								
専門基礎科目			診断・治療学 II	2	2	HN22111	◎																								
専門基礎科目			診断・治療学 III	2	2	HN22212	◎																								
専門基礎科目			臨床心理学	2	1	HN22213	○				◎																				
専門基礎科目			生命倫理	2	1	HN22114		◎				○																			
専門基礎科目			医療と法	2	1	HN22115		○															◎								
専門基礎科目			保健統計学	3	1	HN23116													◎*												
専門基礎科目			公衆衛生学 (疫学含む)	3	2	HN23117										○							◎								
専門基礎科目			生涯発達論	1	2	HN21218	◎																								
専門基礎科目			社会保障論	2	1	HN22219																	◎								
専門分野			プロフェッショナリズムの基盤	プロフェッショナリズムの基盤	セルフディプロップメント	1	1	HN51101																	○				◎		
	プロフェッショナリズムの基盤	キャリアディプロップメント I (職業的アイデンティティ)		2	1	HN52102		○															○				◎				
	プロフェッショナリズムの基盤	キャリアディプロップメント II (キャリアデザイン)		3	1	HN53103																					○				
	プロフェッショナリズムの基盤	キャリアマネジメント論		4	1	HN54104																					◎*				
専門分野	看護の基盤	看護の基盤	看護学概論	1	2	HN51105	◎				○	○			○				○								○				
		看護の基盤	看護学援助論	1	2	HN51106		○					◎				○										○				
		看護の基盤	基礎看護学方法論 I (生活援助技術)	1	1	HN51107			○				◎										○								
		看護の基盤	基礎看護学方法論 II (フィジカルアセスメント)	1	1	HN51208							○										○				◎				
		看護の基盤	基礎看護学方法論 III (臨床看護技術)	1	1	HN51209			○				◎																		
		看護の基盤	基礎看護学方法論 IV (看護の計画的展開)	2	1	HN52110																					◎				
		看護の基盤	基礎看護学演習 I (生活援助技術)	1	1	HN51111			○				◎										○	○					○		
		看護の基盤	基礎看護学演習 II (フィジカルアセスメント)	1	1	HN51212							◎										○						○		
		看護の基盤	基礎看護学演習 III (臨床看護技術)	1	1	HN51213							◎										○						○		
		看護の基盤	基礎看護学演習 IV (看護の計画的展開)	2	1	HN52114			◎				○										○						○		
		看護の基盤	基礎看護学実習 I (療養環境実習)	1	1	HN51115							◎										○						○		
		看護の基盤	基礎看護学実習 II (看護技術実習)	2	1	HN52116	○						○										○		◎				○		
		看護の基盤	基礎看護学実習 III (看護実践実習)	2	2	HN52117			◎				○	○									○		○				○		

看護学保健医療学部看護学科(2022年度以降の入学用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修 選択	ナンバリング	当該科目とDPとの関連																															
					DP1				DP2				DP3				DP4				DP5				DP6											
					①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④								
専門分野	成人看護学概論	2	1	HN52118	◎				○												○															
	成人看護学援助論Ⅰ(セルフケア)	2	2	HN52119		○									○						◎															
	成人看護学援助論Ⅱ(クリティカルケア)	2	2	HN52220			○														◎															
	成人看護学演習	3	1	HN53121			○								○						◎															
	成人看護学実習Ⅰ(セルフケア実習)	3	2	HN53122		○						○									◎					○									○	
	成人看護学実習Ⅱ(クリティカルケア実習)	3	2	HN53123		○						○									◎					○									○	
	老年看護学概論	2	1	HN52124	◎				○												○															
	老年看護学援助論	2	2	HN52225		○									○						◎															
	老年看護学演習	3	1	HN53126			○			○											◎					○										
	老年看護学実習Ⅰ(地域高齢者実習)	3	2	HN53127							◎				○						○														○	
	老年看護学実習Ⅱ(高齢者生活支援実習)	3	2	HN53128							◎				○						○														○	
	小児看護学概論	2	1	HN52129	◎				○												○														○	
	小児看護学援助論	2	2	HN52230		○					◎				○						○															○
	小児看護学演習	3	1	HN53131			○					◎														○										
	小児看護学実習	3	2	HN53132				◎		○					○											○									○	
	母性看護学概論	2	1	HN52133	○																◎															
	母性看護学援助論	2	2	HN52234		○					◎																									
	母性看護学演習	3	1	HN53135			◎			○											○															
	母性看護学実習	3	2	HN53136				◎		○																○									○	
	精神看護学概論	2	1	HN52137	◎																				○											
	精神看護学援助論	2	2	HN52238			○				○												◎													
	精神看護学演習	3	1	HN53139							○																○									
	精神看護学実習	3	2	HN53140			○					○			○											○									○	
	地域・在宅看護学概論	1	2	HN51241	○										○						◎															
	地域生活看護学演習	1	1	HN51142	○																					◎									○	
	地域・在宅看護学援助論	2	2	HN52243		○					◎															○									○	
	地域・在宅看護学演習	3	1	HN53144							◎				○											○										
	地域・在宅看護学実習	3	2	HN53145				○			◎				○											○									○	
	家族看護学	3	1	HN53146			○*				○*																									
	医療安全論	3	1	HN53147							○				○																					
	災害看護学	4	1	HN54248											○												○									
	看護倫理学	3	1	HN53149			◎				○																									○
看護管理学	3	1	HN53150																						○									○		
看護教育学	4	1	HN54151																																◎*	
チーム医療論	3	1	HN53152											○						○						○										
公衆衛生看護学概論	3	1	HN53153							○															○											
統合実習Ⅰ(ヘルスマネジメント実習)	4	1	HN54154											○																					○	
統合実習Ⅱ(多職種連携実習)	4	2	HN54155				○																			○								○		
看護研究概説	4	1	HN54156																																◎	
看護研究	4	3	HN54157																																◎	
専門分野	助産学概論 ※	3	2	HN53158	◎*										○*						○*						○*									
	基礎助産学 ※	3	2	HN53159		◎*					○*																									
	健康教育技法 ※	3	2	HN53160			◎*								○*											○*									○*	
	助産診断・技術学概論	4	1	HN54161				○			◎				○											○										
	助産診断・技術学Ⅰ(正常な経過)	4	2	HN54162				○				◎																○								
	助産診断・技術学Ⅱ(異常な経過)	4	2	HN54163				○				◎																○								
	助産診断・技術学演習	4	2	HN54164		○						○														○				◎						
	地域母子保健学 ※	3	2	HN53165							○*										◎*					○*									○*	
	助産管理学	4	1	HN54166				○							○											○									◎	
	助産学実習	4	11	HN54167				◎				○														○									○	

\*は選択科目

【看護学科】

卒業要件			
卒業に必要な修得単位数124単位(1年間の履修登録上限単位数は、43単位とする)			
科目	合計	必修	選択
教養科目	17単位	12単位	5単位
専門基礎科目	107単位	29単位	2単位
専門科目		76単位	
合計	124単位	117単位	7単位

【助産師課程選択者】

卒業要件			
卒業に必要な修得単位数149単位(1年間の履修登録上限単位数は、47単位とする)			
科目	合計	必修	選択
教養科目	17単位	12単位	5単位
専門基礎科目	29単位	29単位	—
専門科目	103単位	103単位	
合計	149単位	144単位	5単位

●実務経験のある教員による授業科目 当該科目において関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かす、実践的教育を行っている科目です。看護学科では、実習科目である「基礎看護学実習Ⅰ(療養環境実習)」「基礎看護学実習Ⅱ(看護技術実習)」「基礎看護学実習Ⅲ(看護実践実習)」「成人看護学実習Ⅰ(セルフケア実習)」「成人看護学実習Ⅱ(クリティカルケア実習)」「老年看護学実習Ⅰ(地域高齢者実習)」「老年看護学実習Ⅱ(高齢者生活支援実習)」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」「地域・在宅看護学実習」「統合実習Ⅰ(ヘルスマネジメント実習)」「統合実習Ⅱ(多職種連携実習)」「助産学実習」は実務経験のある教員による授業科目となります。専任教員の実務経験実績については大学ホームページの教員一覧(<https://www.acoffice.jp/uthshp/KgApp>)を参照してください。



授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野 人間の理解	哲学	人間は多様な「考え方」を持っている。その背景には、「主観」「客観」という認識の仕方や、「二元論」「全体論」「関係論」などが潜んでいる。古代ギリシア以来、哲学が「愛知」という意味であることを深く考え、「世界観」「人間観」などの「観」方が「知」によって形成されていることを学ぶ。	講義
	日本近現代史	幕末明治維新から現在までの歴史で、いくつかの特徴的なテーマを選んで講義をする：明治維新、近代国家の建設、日清・日露戦争、大正デモクラシー、軍部の台頭とアジア太平洋戦争、戦後復興と高度成長、プラザ合意以降と長期停滞。これらをテーマごとに掘り下げて、現在の日本がどのように形作られてきたのかを学ぶ。そこにアジアの視点、欧米の視点も加えて、隣国アジアの、そしてひろく世界の人々と語り合うことができるようにする。	講義
	文化人類学	人間を理解するためには、身体理解のみならず、環境、歴史、経済など文化的背景から、人間の普遍性や多様性を深く考えることが求められる。この科目を通して、文化的な多様性の受容や人の生き方の普遍性について考え、人間全体を看る手掛かりとする。	講義
	教育学	教育の名の下に行われるあらゆる教育実践において生じている臨床的諸問題の予防と対処を目的としている心理・教育的援助サービスの意義と効用、さらには限界について理解することを目的とする。学校に限らず医療・福祉・企業・地域社会・家庭等における教育実践が、社会・文化の急激な多様化に伴って危機的状況にあると指摘されている。「教育とは何か」を認識するとともに、危機的状況の発生する機序が人と環境との相互作用によってもたらされることを理解し、その解決の在り方について学ぶ。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野  生活と文化	コミュニケーション論	コミュニケーションとは、人間のみならず、あらゆる生命体が他者や環境との間で、モノ、情報、価値、意味の交換をし、それに基づいた相互作用として理解されている。本科目では、日常経験と神経生理学的、対人的、組織的水準から人間のコミュニケーションについて比較検討し、「相互作用」の意味の理解を深める。また、非言語／言語的コミュニケーション、説明、社会的交換、交流分析、生産的議論等の処理論を学び、看護専門職としてのコミュニケーションのあり方を考究する基盤とする。	講義
	家族と社会	家族は、人間のつながりの原点であると言われる。その「つながり」とはなにか。現代は「家族」が崩壊しているといわれるが、何が「崩壊」しているのか。家族の有り様と社会の変化との関連を理解し、家族についての考え方を深める。	講義
	法と人権	専門職業人としての、態度や志向性を理解するための基礎として、社会生活の中での法の役割・機能・義務と責任や看護に関連する法制度について学ぶ。また、人権を守るとはどういうことなのか、現代の日本社会において生起している人権に関する諸問題について考察することにより、人権擁護に努める態度を養う。	講義
	生活と経済学	人間の生活は経済的活動なしには成立しない。本科目では、経済学の基礎的知識を学び、経済学の観点から人間の生活を理解することを目標とする。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野  生活と文化	文化と健康	健康は、単に身体の状態だけの問題ではない。平均余命の延長が示すように、文化の有り様が健康と密接に関連していることを、多くの事例をとおして理解する。	講義
	東京の中の多摩を知るセミナー	大学は「学問の府」といわれるが、その「所在」の環境は、「大学」の発展と学生の学びに密接に関連している。本大学が所在する「東京」と「多摩」をキーワードにして、「地域環境」を知ること、「地域社会の発展」について実践的活動を通して考える。	演習
	スポーツレクリエーション	スポーツやレクリエーションについて実践的に学ぶことを目的とする。具体的には、競技方法やレクリエーションを学び、実際に体育館や運動場においてスポーツやレクリエーションの実技も習得するとともに、学生の健康増進に努め、楽しみを分かち合いながらチームワークを学ぶ。	演習
	スポーツ医学	高齢社会を視野に入れて、高齢者の体力作り、健康維持などの方策としてのスポーツの在り方について、また様々な年齢でおこるスポーツによる損傷とその予防策について理解することを目的とする。具体的には、運動中の生体のメカニズム、運動中のエネルギー供給のメカニズム、トレーニングによる生体の変化について理解する。その上で、運動処方、コンディショニングの理論と方法を学習する。	講義





## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養分野  グローバル コミュニケーション	英語Ⅲ (日常会話)	今日では、英語はグローバル言語として、異なる言語を持つ諸外国の人々とのコミュニケーション手段として使用されている。相手の母国語を知らなくとも、日常の会話ができるようになることを目標にする。	講義
	英語Ⅳ (英語論文読解)	看護学の学びの中には、ある事柄についての根拠や原理に関する理論や研究的知見、諸事象についての異なる考え方、解釈を知ることが含まれている。それらを理解するために、その内容が表示された「原文」(多くは、英語)を読めるようになることを目標に学習する。	講義
	韓国語 (基礎会話)	国際的視野拡大のために隣国韓国の文化に触れながら、韓国語であいさつ・自己紹介ができる基礎会話について学ぶ。	講義
	異文化体験セミナー	「異文化」を手がかりとした他者理解の実践を行う。人間を様々な価値観や習慣、生活様式を持つ集団の中に生まれ、育ち、死んでいくものとしての理解をしていくセミナーである。価値観が多様化・個別化していると言われる現代において、他者を自分とのつながりにおいて考えることを学ぶ。	演習

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養分野  大学における学び	スタディスキルセミナー	社会人、専門職者として自律性のある行動及び自己研鑽ができる力を身に着けるために「大学で学ぶこと」の意義を理解し、大学生としての基礎的な学習技能と学習態度を養う。そのため、本科目では学習スキルを学ぶとともにその実践を授業に取り入れる。具体的には、自らテーマを設定し調べ、まとめて発表することで能動的に学ぶことの意義を体得する。また、ここで学んだ学習スキルは、他の科目での活用を促し定着をはかる。	演習	
	情報リテラシー	情報とは、人間が判断したり行動を起こしたりするために必要な種々の媒体を介しての知識である。つまり、人間は得た知識を「情報」として活用し、それに基づいて判断したり行動を起こしているのである。どのような知識を「情報」とするかは個別性がある。本科目では情報倫理や情報活用に関する理論について学ぶ。	講義	
	情報科学演習	「情報リテラシー」の学びをふまえ、今日の情報活用の方法であるICTを介した活用方法を演習し、情報検索、情報活用の方法を学ぶ。	演習	
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学 I	「人間」を理解する仕方の一つに、身体の形態とその機能から捉える見方がある。人の身体の形態はどのような構造をしているのか、その構造はどのような機能をもっているのか、その機能はどのように調節されているのか、その構造と機能は、どのように日常生活と関連しているのかを理解し、病理学、診断・治療学、および看護学の基礎とする。形態機能学 I では、人体の基本構造としての細胞、組織、器官系、および成長、老化、生殖の過程また、人体の恒常性について、ホメオダイナミックス（動的平衡）という見方から学ぶ。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎分野	形態機能学Ⅱ	形態機能学Ⅱでは、形態機能学Ⅰを踏まえ、骨格系、筋系、脳・神経系、皮膚・感覚器系の構造と機能を理解し、人間の日常の行動がどのように形作られているかを理解し、睡眠と休息、運動が不可欠であること、そのメカニズムについて理解する。	講義
	形態機能学Ⅲ	形態機能学Ⅲでは、消化器系、呼吸器系、循環器系の構造と機能について、各々を関連付けながら理解する。	講義
	形態機能学Ⅳ	形態機能学Ⅳでは、腎・泌尿器系の構造と機能について、形態機能学Ⅲで学んだ循環器系と関連づけながら、日常の排泄行動について理解する。また、人間の生殖器の構造と機能について理解する。	講義
	生化学（栄養学含）	本科目は、体内で行われる正常な物質の働きを知り、物質レベルの基本的な生化学を理解した上で、食事として摂取された物質の働きという視点での栄養学について学ぶ。	講義



## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎 分野	専門 基礎 科目	<b>病理学</b> 人のからだに生じている病的変化がどのように成り立っているのかを、特徴的な組織・細胞から、循環障害、炎症、代謝障害、先天異常、腫瘍の5病変から総論的に概観し様々な病気や病態を理解するための基礎的知識を学ぶ。	講義
	<b>臨床薬理学</b> 薬はなぜ効くのか。薬効とはなにか。薬と生体との相互作用とそのメカニズム、薬効に影響を及ぼす要因について理解し、薬による疾病の予防、治療に関する基礎的知識を学ぶ。また、臨床で使用される薬に関連する法律と薬の取り扱いと管理のあり方を理解する。	講義	
	<b>感染免疫学</b> 人間と微生物との関係から感染症の成立過程および微生物に対する人間の防御機構を理解する。具体的内容は、ヒトと感染・感染症の機構と種類、免疫と生体防御機構、感染症の予防と感染防御対策等を学ぶ。	講義	
	<b>診断・治療学総論</b> 疾患の治療の基本となる食事療法、薬物療法、放射線療法、手術療法、集中治療および化学療法の概要、特徴、適応などについて基礎的知識を学ぶ。この科目は、診断・治療学Ⅰ～Ⅲおよび各看護学の方法論を学ぶ上での基本となる。	講義	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 基 礎 分 野	専 門 基 礎 科 目	診断・治療学Ⅰ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅰでは呼吸器系・循環器系・消化器系・血液系・内分泌系・アレルギー疾患等を中心に学ぶ。	講義
		診断・治療学Ⅱ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅱでは母性に関するもの、小児疾患に関するものを中心に学ぶ。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)
		診断・治療学Ⅲ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅲでは精神障害および老年疾患について学ぶ。	講義
		臨床心理学	現代社会において人々は、多様な心理的問題を抱えながら生きている。人々の精神的健康の維持・増進を援助するためには、心理的問題を抱えながら生きていることについて理解し、それらを予測し、軽減するための援助に関する知識を必要とする。具体的には、カウンセリング、心理療法、集団心理療法、家族療法など、パーソナリティを理解するための基礎的知識を学習する。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基礎分野	生命倫理	現代社会では、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植、死の判定基準等、医療の現場における倫理的諸問題が日常レベルの話題となっている。そして、倫理学観点からの人間の道德規範と善の問題や人間の価値観がどのように形成されていくのかその基本的な考え方を理解する。本科目では、これらの事象に対して、看護専門職としてのアプローチについて学びを深める。	講義
	医療と法	専門職業人として、変動する保健医療福祉の現場に対応した各種法律や施策について学ぶ。特に、保健師助産師看護師法を中心とした看護に関する法、医療に関する法、保健衛生に関する法、薬事・環境に関する法、社会福祉・保険に関する法、労働に関する法を概観し医療と法について学習する。	講義
	保健統計学	本科目は健康問題の健康指標を正しく理解するために、統計資料の読み方や統計調査の方法について学ぶ。健康に関する人口統計指標や国民・地域住民の保健衛生状態について健康指標の意味するものについても概観する。	講義
	公衆衛生学（疫学含む）	公衆衛生学の概念、方法論の基礎及び疫学の観点から一次予防、二次予防および三次予防の概念と理論に基づき、環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深め、疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関して学習する。また、公衆衛生活動の様々な実践活動を学び、人々の健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 基礎 分野	専門 基礎 科目	生涯発達論	人間を生涯にわたって発達する存在としてとらえ、胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期の各期を身体的、心理的、社会的発達の側面から理解する。発達の基本概念と発達理論についても学び、発達の視点に基づく学習を深める。	講義
		社会保障論	看護専門職として個人や集団に対して社会保障制度の活用や、保健・医療・福祉サービスの連携を行うために社会保障や社会福祉制度について深く学ぶ。社会保障の歴史の変遷を概観し現代社会の変化や社会保障・社会福祉の動向から各種法律や政策についても学習する。	講義
専門 分野	プロ フェ シ ョ ナ リ ズ ム の 基 盤	セルフディプロップメント	人間の多様性の理解と個人の尊厳（考え方、心理的状態、身体的相違、文化、言語、生活様式、価値観）を考える。また、自己と他者、関係性、アイデンティティ、人間としての成長を概観する。そのうえで自己省察と自己の成長発展を考える。看護の専門職性を考える基盤となる科目である。	講義
		キャリアディプロップメントⅠ(職業的アイデンティティ)	専門職といわれる職業について調べ、そのうえで保健・医療・福祉システムにおいて多様化する看護専門職に求められる資質、姿勢（自律性、倫理性）や職業観を概観し、専門職としての看護職について自分の考えをまとめる。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	プロ フェ シ ョ ナ リ ズ ム の 基 盤	<p><b>キャリアディプロ ップメントⅡ(キャリア デザイン)</b></p> <p>保健・医療・福祉システムにおいて多様化する看護職としてのキャリアの多様性とキャリアデザイン（内的キャリア-外的キャリア）、職業的アイデンティティ、職業の社会的位置づけ等、看護専門職としての発展を多角的に考える。自分が描くキャリアデザインについて具体化できるように、めざす看護職の概要、社会的位置づけ、必要な資格などについて調べ、説明できる。</p>	
		<p><b>キャリアマネジメン ト論</b></p> <p>自己が描いた看護専門職の将来像を実現するために、看護の質を保証するために看護職に求められるものについて考察を深める。将来、看護職として成長・発達過程で直面する課題と課題を乗り越えるための視点を具体的にし、看護の専門職としてのキャリアをマネジメントすることについて自己の考えを具体的に説明する。</p>	共同
	看護 の 基 盤	<p><b>看護学概論</b></p> <p>看護学の全体像を概観し、歴史的変遷を踏まえて、看護の主要概念、看護を提供する場と仕組み、看護活動をするための法的根拠・倫理規範、および看護の対象を理解する上で必要となる基本的な人間の生活から現代における看護の役割、機能、課題について学ぶ。</p>	講義
	<p><b>看護学援助論</b></p> <p>看護実践としての技術の概念的理解をする。特に、看護技術修得に向けて、道具としての自分、チームの一員としての自分の在り方を考える。 また、看護理論の学修の通して、「看護の対象者」「ケア・ケアリング」「患者-看護師関係」について考え、看護実践をする際の看護者としての姿勢と看護観を育てていく動機づけとする。</p>	講義	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 分 野	看 護 の 基 盤	<b>基礎看護学方法論Ⅰ (生活援助技術)</b>	人にとっての日常生活行動の意味、およびニーズを充足するために必要な援助方法の原理・原則を学ぶ。安全、安楽、自立の視点から、対象者にとってのより良い日常生活援助を模索しながら、援助の基本を修得する。また、効率的かつ対象者への配慮を含んだ看護職者の身体の動かし方や道具の使い方を修得する。	講義
	<b>基礎看護学方法論Ⅱ (フィジカルアセスメント)</b>	ヘルスアセスメントの概念を理解し、基本的なフィジカルアセスメントについて学ぶ。対象の何を、どうみるかを考えながら、症状や徴候から情報を収集し、状態を判断する過程を学ぶ。	講義	
	<b>基礎看護学方法論Ⅲ (臨床看護技術)</b>	検査・治療に伴う基礎的な知識や技術を解剖学・生理学の根拠をふまえて学ぶ。対象者への侵襲を伴う技術の特性を理解し、技術施行による対象の反応の観察から対処までの基本的な臨床判断につながる知識を学修する。検査・治療に伴う技術における看護師の役割について、倫理的姿勢が基盤となること、正直で責任ある行動をとることを学ぶ。	講義	
	<b>基礎看護学方法論Ⅳ (看護の計画的展開)</b>	看護の実践には、系統的で根拠のある科学的思考が不可欠であることを理解し、対象に必要な看護を提供するための基本的な看護の計画的展開技術を学ぶ。対象の自立に向けた安全で安楽な看護を提供するために、対象の意思力・知識・体力、および、倫理的な観点からアセスメントする技術を学ぶ。	講義	

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野	看 護 の 基 盤	基 礎 看 護 学 演 習 I ( <span style="color: red;">生活援助技術</span> )	演 習
	基 礎 看 護 学 演 習 II ( <span style="color: red;">フィジカルアセスメント</span> )	解剖学・生理学の知識を活用しながら、「基礎看護学方法論Ⅱ」と連動させてフィジカルイグザミネーションの手法を用い、個体ごとの特徴と生体の正確な情報を得るための手技を修得する。演習ではフィジカルイグザミネーションで得たデータから対象の状態を判断するとともに自己の手技を評価し、臨床判断を行うために必要な知識と技術の基本を修得する。	演 習
	基 礎 看 護 学 演 習 III ( <span style="color: red;">臨床看護技術</span> )	「看護学援助論」の知識に基づき、「基礎看護学方法論Ⅲ」と連動して、効率的かつ対象者への配慮を含んだ看護職者の身体の動かし方や道具の使い方を修得する。演習では、医療安全の観点と看護者の倫理的判断から患者の安全・安楽・安心を保障する知識と技術を修得する。	演 習
	基 礎 看 護 学 演 習 IV ( <span style="color: red;">看護の計画的展開</span> )	事例の情報収集、アセスメント、問題抽出、計画立案までを実際に展開し、看護の計画的な展開技術を修得する。展開では、対象を安全・安楽・自立について倫理的な観点からアセスメントする技術、対象の意思・知識・体力から臨床判断する技術を活用し、対象に必要とされる援助を導き出す。また、グループワークで他者の思考・価値にも触れ、省察的な思考を経て視野を広げる	演 習

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	看護の基盤	<p><b>基礎看護学実習Ⅰ (療養環境実習)</b></p> <p>病院の社会的役割および医療の対象に合わせた病院の機能を知る。そのうえで、病院が多くの部署で構成されており、患者を中心として看護も他部署と連携しながら独自の役割を担っていることを知る。入学直後に病院環境にじかに触れることにより医療や看護への関心を高め、看護学を学ぶ動機付けとする。</p>	実習
	<p><b>基礎看護学実習Ⅱ (看護技術実習)</b></p>	<p>2年前期に基礎看護学実習Ⅱを行うことで、同学期後半に看護実践過程を展開する基礎看護学実習Ⅲとの連続性・発展性の強化をはかる。本実習では、療養する患者の理解に向けて、患者や医療者との目的をもった意図的なコミュニケーションおよび看護における「関わり形成」の重要性を学ぶ。実習では、看護師の行うコミュニケーションをモデルとして、自らも対象に関わりながら、療養生活の不自由さとその人なりの対処や工夫を見出し、対象の気持ちに配慮しながら安全・安楽な療養生活への援助の理解とコミュニケーションの学修を進める。</p>	実習
	<p><b>基礎看護学実習Ⅲ (看護実践実習)</b></p>	<p>入院患者の日常生活に関する看護実践過程を展開することで、看護実践力の基本を学ぶとともに、看護観を育む。健康状態と日常生活の観点から対象をとらえ、生活行動について対象に適した看護技術を安全に提供し、看護実践過程を通して対象を尊重した態度で援助関係の形成に努める。初めて、看護の対象者を受け持って実践する。</p>	実習
健康生活と看護	<p><b>成人看護学概論</b></p>	<p>成人期にある人の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、現代の成人を取り巻く状況を生活の視点から学ぶ。今日の健康に関する動向および、保健・医療・福祉政策と今日の健康課題について概観する。また、成人期にある対象(患者・家族)を看護するための基本的な考え方を基に様々な健康状態に応じた看護を学修する。</p>	講義



## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  健康 生活と看護	成人看護学援助論Ⅰ (セルフケア)	生活習慣に関連した健康障害による症状や障害をコントロールしながら生活する成人期にある対象（患者・家族）について学修する。その際、身体的・心理的・社会的特徴を関連させ理解する。また、対象がセルフマネジメントスキルを獲得するための看護や、より健康を維持・促進・するための看護、広義のエンド・オブ・ライフ・ケアについても学修する。また、退院後を視野に入れ外来で行われる治療や生活の場における継続支援についても学修する。	講義
	成人看護学援助論Ⅱ (クリティカルケア)	健康障害により生命の危機を引き起こし治療が必要な成人期にある対象（患者・家族）への援助方法を、ライフサイクルにおける特性、病態や治療法を踏まえて学修する。そのなかでも代表的な治療法である手術療法を必要とする対象（患者・家族）、また慢性疾患の急性増悪により重篤な状態となった対象（患者・家族）への援助方法に焦点をあてて、全身管理、合併症予防、回復を促進するための看護について学修する。	講義
	成人看護学演習	成人看護学援助論ⅠおよびⅡの学修内容を踏まえて、慢性的な経過をたどる対象（患者・家族）及び急激な身体侵襲から回復する過程をたどる対象の看護について学修する。具体的には、事例を用いて問題解決技法である看護過程の展開を行うことでアセスメントから看護計画の立案までを学修する。また、立案した看護計画の一部を演習することで学習内容の強化をはかる。	演習
	成人看護学実習Ⅰ (セルフケア実習)	慢性的な経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象（患者・家族）の発達段階や健康レベルに応じた特徴を理解し、疾病や障害受容、生活の調整や再構築に必要な看護を修得する。	実習

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  健康 生活と看護	成人看護学実習Ⅱ (クリティカルケア 実習)	急性の状況にある、健康障害をもつ手術療法を受ける成人期にある対象（患者・家族）の発達段階や健康レベルに応じた特徴を理解し、手術侵襲や麻酔の影響による身体および心理、生活上の変化を踏まえて最適な健康状態に回復するために必要な看護を修得する。	実習
	老年看護学概論	老年期にある対象の発達課題および加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解し、老年期にある対象とその家族に看護を提供するために必要な機能と役割について学ぶ。また、高齢社会の動向を通して、高齢者の生活に関連する保健医療福祉の現状と課題についても概観する。	講義
	老年看護学援助論	様々な健康状態の高齢者とその家族に必要な基礎的知識について学ぶ。特に、健康の維持・増進に向けた看護、生活機能を整える看護、高齢者に多い症候の看護、介護予防促進について学ぶ。	講義
	老年看護学演習	高齢者に対するヘルスプロモーション、様々な健康状態・特有な疾患に対する看護、多様な生活の場における高齢者の看護について理解する。さらに、その人らしさを踏まえた看護過程の展開方法を習得する。	演習

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  健康 生活と看護	老年看護学実習Ⅰ (地域高齢者実習)	地域および高齢者施設で生活する高齢者の特徴を理解し、高齢者がその人らしく生活を送るために必要な援助について学修する。加齢や疾病が高齢者と家族に及ぼす影響を理解し、人権を尊重した関わりを学ぶ。また、保健医療福祉サービスにおける看護師の役割と連携の必要性を理解する。	実習
	老年看護学実習Ⅱ (高齢者生活支援実習)	健康障害を持つ高齢者および家族の顕在的・潜在的状態から看護問題を総合的にアセスメントし、高齢者の日常生活・社会生活に適応するために必要な個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。また、保健医療福祉サービスにおける看護師の役割と連携の必要性を理解する。	実習
	小児看護学概論	小児期は人間のライフサイクルのスタートにあり、一人ひとりの子どもは、等しく子どもとしての権利を持ち、どの時代や社会においても、子どもが生き生きと健やかに心身ともに成長・発達できることが望まれる。未成熟であるがゆえに、様々な疾患に罹患したり、事故にも遭遇しやすい。この授業では、小児各期における成長発達を土台に、健康な小児の日常生活や現代社会を取り巻く諸問題や子育て支援についても概観する。	講義
	小児看護学援助論	子どもの成長発達過程には、個人差があるものの、多くの子どもにみられる成長・発達段階ごとの特徴がある。子どもの特徴をふまえ、疾病や入院が小児とその家族に与える影響を理解し、適切な対応と援助を行っていくことが重要である。①各発達段階にある健康を障害された小児の看護②外来における小児および家族の看護(検査・処置等)③入院中の小児および家族の看護(プレパレーション等含む)④小児の医療安全・小児の事故⑤在宅療養中の小児および家族の看護⑥災害時の小児および家族の看護⑦急性症状のある小児と家族の看護⑧手術を受ける小児と家族の看護⑨長期経過をたどる小児と家族の看護⑩終末期にある小児と家族の看護	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  健康 生活と看護	小児看護学演習	健康障害を持つ子どもと家族のおかれている状況を的確に判断し、成長・発達や健康上の問題について状況に応じた看護実践を学修する。代表疾患の特徴(病態・治療等)を理解し、健康障害が小児及び家族に及ぼす影響やアセスメントの視点および看護について学ぶ。看護事例を用いながら、バイタルサイン測定・身体計測、酸素療法、与薬方法、点滴固定、採尿、腰椎穿刺時の固定、ベッド上での安静方法を学ぶ。また、ペーパーペイシェントを用いて看護過程を展開し、状況に応じた小児および家族への看護を学修する。	演習
	小児看護学実習	小児期の成長発達の特徴および、その成長発達過程における疾患、障害を持つ意味についての理解を踏まえ、実際に入院中の小児のケアを通して、個性をふまえ、小児および家族への看護を学修する。子どもの成長・発達過程を理解し、個々の成長・発達に応じた関りや子どもの人権を尊重した関わりを学ぶ。小児の病態、発達段階をとらえ、状況に応じた小児および家族への看護実践を行う。保健医療福祉チームにおける看護師の役割と連携の必要性を理解する。	実習
	母性看護学概論	女性の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からグローバルに学び、女性に対する健康支援の必要性や生命倫理について理解する。そのうえで女性のライフステージやマタニティサイクルにおける身体・心理社会的特徴と健康上の課題やヘルスプロモーションについて学ぶ。また日本の母性看護の変遷および母子保健の変遷と動向について学び、母子と母子を取り巻く人々に対する支援の在り方、母性看護の在り方について考える。	講義
	母性看護学援助論	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の生理的過程と各期に発生する異常について学ぶと共に、妊産褥婦及び新生児の身体・心理・社会的特徴と看護の必要性について学ぶ。また親になるプロセスの重要性と、妊娠・分娩・子育てが女性とその家族にとって重要な時期であることを理解し、必要な看護や保健指導について学ぶ。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 分 野	健康 生活と 看護	母性看護学演習	妊婦・産婦・褥婦・新生児に対する看護過程展開方法をペーパーシュミレーションを通して学ぶことで、看護過程の展開に必要な基本的能力を修得する。母性看護学では対象者が自ら健康の状態を維持・増進できるように、ヘルスプロモーションとウェルネスの視点で看護過程が展開できるように学修する。また演習を通して妊婦・産婦・褥婦・新生児の援助に必要な看護技術を習得する。	演習
		母性看護学実習	妊娠・分娩・産褥期における母子とその家族の健康状態を理解し、対象者への看護ケアを見学・実践する事で、母子とその家族に対する看護実践に必要な基本的能力を修得する。特に褥婦に対する看護ケアにおいては、見学・実践を通して、子育て期の母子と家族に必要な看護について学ぶ。また分娩の見学や対象との関わりを通して生命誕生の喜びと生命の尊厳について考える。	実習
	地域 生活と 看護	精神看護学概論	精神看護と精神医療の概念をとらえ、それらに関する法律や制度および地域社会における精神保健について学ぶ。さらに、我が国の精神保健医療および福祉制度の現状と課題について学ぶ。	講義
		精神看護学援助論	本科目では精神看護における援助の考え方として、精神看護における患者－看護者関係のあり方、心の健康の保持増進への援助、精神障害者との関わり方、セルフケアの援助、患者家族の理解と援助について、看護の倫理と人権擁護と共に理解する。また、地域精神保健活動における資源の活用などを含めた精神看護における看護の実際を事例を通して学び、理解を深める。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  地域生活と看護	精神看護学演習	精神を病む人の理解を深め、精神科看護の目的および精神科看護師の役割と機能の方法を学び、患者－看護師関係を基盤に日常生活のアセスメントの視点および援助方法を習得し、社会の中で生活していくための援助技法について学修する。	演習
	精神看護学実習	精神に障害を持った対象を理解し、個別的な看護実践について学ぶ。特に、対象との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、対象に現れている精神症状が、日常生活行動にどのように影響しているかを知り、日常生活行動の維持向上にむけた看護実践について学ぶ。また、対象とのコミュニケーションを通して、自分自身を見つめ、自己洞察する力や共感的に理解する力を養う。	実習
	地域・在宅看護学概論	地域で生活している人々や療養している人々とその家族の特徴を学ぶとともに、在宅で療養する人々を取り巻く社会の変化と生活の質の重視、自己決定の尊重等の人々の価値観の変化、保健・医療・福祉等の諸制度、関連職種との連携・協働のあり方の理解を通して、地域包括ケアシステムにおける看護の役割を学ぶ。	講義
	地域生活看護学演習	地域における人々の生活と、生活に影響を与える環境（文化的環境・社会的環境・自然環境）を理解し、環境と健康の関連性、地域で生活する人々の健康を支える看護について考える。	演習



## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野  看護の学びの統合	医療安全論	人間の生存にとっての安全の重要性を認識し、看護・医療における安全の確立に向けた考え方を学ぶ。①人間の生存と安全②安全の確立と人間の能力③安全確立と社会システム・文化④看護・医療における安全の問題(各領域)⑤安全と看護・医療の専門性(自立性、倫理性、責任と義務)⑥安全と看護・医療の専門性(危険の予測・識別・回避)⑦看護・医療における安全に対する価値づけと文化の醸成	講義
	災害看護学	災害による社会や地域の人々の健康や生活に及ぼす影響と人々の健康や生活のニーズに応じた看護について学修し、災害の種類と疾病構造、災害サイクルにおける各期の特徴とその看護支援、災害に関する社会のしくみや個人備えおよびこれからの課題について理解する	講義
	看護倫理学	専門基礎分野の「生命倫理」を踏まえ、倫理の原則や倫理規定から、看護職に求められる倫理について学習するとともに、現在の医療・看護の場において看護職が遭遇する倫理的問題の所在を明らかにし、看護職としての倫理観を構築すること、さらに、倫理的問題解決のために活用できる理論・対処方略について学習し、対象者の人権尊重と倫理的視点から看護職として適切な判断能力を養う。	講義
	看護管理学	看護管理の概念、看護業務、組織管理、看護職のキャリア教育、看護システムの機能等の基礎的知識について学修し、質の高い看護を提供するための人的・物的資源および環境をマネジメントする意義と方法について理解する。また、組織の中の看護職として自分のキャリアについて考察する。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)



## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野  看 護 の 学 び の 統 合	看護教育学	看護教育の理念や目標について学習し、看護教育制度、看護教育の現状と課題、教授－学習過程、教育方法、教育評価等の看護教育の概要について理解する。	講義
	チーム医療論	近年の患者ニーズの多様化や医療の進展により、医療の質を向上させる重要性が言われている。この科目では、安全で良質な医療の提供や療養上の課題の解決をおこなう基礎知識を学ぶ。また、チーム医療の実際を学び、看護職のチーム医療のメンバーとしてあり方について理解を深める。	講義
	公衆衛生看護学概論	3年次までに学習した個人および家族への看護を踏まえ、公衆衛生看護の理念、目的、活動の方法を学び、人間の健康とその援助について、生活環境や社会情勢の変化に対応しつつ、個人のみならず地域・集団を対象とした人々の健康維持・増進への援助について考察し、看護の考え方の幅を広げることを目的とする。	講義
	統合実習 I (ヘルスマネジメント実習)	これまでに習得した看護実践能力の評価を踏まえ、保健・医療・福祉の多機関の連携が必要な対象者を理解するとともに、対象者が受ける切れ目のない包括的な支援における看護の独自の機能・役割について理解する。	実習

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野	統合実習Ⅱ (多職種連携実習)	これまでに習得した看護実践能力の評価を踏まえ、看護の限界と医療チームにおける多職種の連携の視点から看護の役割を理解し、自己の看護実践能力を高める。	実習
	看護研究概説	看護研究の概念(看護研究とは)、研究の意義と必要性、文献検索、研究課題の発見、研究目的と方法のつながり、研究における倫理、結果の処理方法、解釈、論文の作成までの一連の研究のプロセスを理解し、看護を科学的にとらえる能力を養う。	講義
	看護研究	看護学における自己の関心や疑問、実践上の課題から研究領域・課題を設定し、既習の諸学を通して得た知識を活用しながら、研究のプロセスを学習する。	演習
	助産学	人の一生を通して、性と生殖について支援する助産師の役割と責務について、歴史的な変遷を振り返りながら学び、助産学の特性を理解する。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野  助 産 学	基礎助産学	専門基礎科目で習得した「リプロダクション系」の形態と機能の理解を踏まえ、母子の健康に係わる妊婦・胎児・乳幼児の栄養と母子の健康に影響する環境要因について理解する。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)
	健康教育技法	リプロダクティブヘルスの考え方を基盤にして、女性とその家族の健康支援に関する看護の役割の理解を基に、健康教育の方法、カウンセリングに関する基礎知識およびカウンセリング技法について修得し、対象や他職種との連携のもとで支援ができるためのコミュニケーション能力を修得する。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)
	助産診断・技術学概論	妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期のケアに必要なアセスメント、助産技術の基本原則と技術について総論的に学び、女性および家族への生涯にわたる健康の継続的支援について修得する。	講義
	助産診断・技術学 I (正常な経過)	妊産褥婦および新生児・家族を理解し、正常な妊娠経過の診断に必要な臨床判断能力を養うための基本的知識を修得する。正常な妊娠分娩産褥経過に対する助産診断を行い、正常経過からの逸脱を回避するための助産ケア修得する。また妊娠・産褥期の継続的な支援について修得する。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 分 野  助 産 学	助産診断・技術学Ⅱ (異常な経過)	異常妊娠・合併症妊娠・胎児異常・分娩時における正常からの逸脱、分娩時における緊急事態への対処方法、異常産褥・ハイリスク新生児のケアについて修得する。また、誘発分娩・麻酔分娩について修得する。さらに退院後の継続支援と多職種との連携について修得する。	講義
	助産診断・技術学演習	妊産褥婦および新生児の助産診断および助産ケアを提供するために必要な徐さん技術および検査技法について修得する。分娩期の産婦と胎児およびその家族に対する助産技術について修得する。産褥期の褥婦と新生児およびその家族に対する助産技術について修得する。	演習
	地域母子保健学	住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供できるための知識および保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら地域における子育て世代を包括的に支援する能力を修得する。	講義 ※別表1、別表3 複数教授科目 (シラバス添付)
	助産管理学	助産業務についての管理、助産師に関連する各種関係法規、助産所の管理・運営についての基本や周産期医療システムについても広く学ぶことを目標としている。また、周産期における医療安全の確保と医療事故への対応、平時の災害への備えと被災時の対応について修得する。	講義

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野	助産学	助産学実習	助産の対象となる人々に対して、科学的根拠に基づく助産診断・技術を統合した助産活動を実践することを通して、助産における看護実践能力を高めることを目的としている。実習を通して助産実践に関わるアセスメント能力、助産技術を習得する。また、助産診断に基づき、正常分娩に関する助産技術を習得する。母子及び家族に関しては、助産学の視点から母子や家族の健康を増進し、地域への継続した支援に繋がる援助ができることを目指している。産褥期の授乳支援や1カ月健診までの母子のアセスメントおよび母子と家族を支援する能力を養う。	実習

4年間の履修系統図

看護学科	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教養分野	人間の理解	1 哲学 15 2 日本近現代史(リハ共修) 30	2 教育学(リハと共修) 30	1 文化人類学 15					
	生活と文化	1 ボランティアワークセミナー 30 1 コミュニケーション論 15 1 スポーツレクリエーション(リハ共修) 30	1 文化と健康 15 1 東京の中の多摩を知るセミナー 30	1 家族と社会 15 1 スポーツ医学(リハと共修) 15	1 法と人権 15	1 生活と経済学 15			
	人間と環境	1 生物と進化 15 1 物理学 15 1 環境科学(リハと共修) 15	1 生命科学 15						
	グローバルコミュニケーション	1 英語Ⅰ(読む・書く基礎) 15	1 日本語表現 15	1 英語Ⅱ(日常会話) 15	1 英語Ⅲ(医療英語) 15	1 英語Ⅳ(英語論文解説) 15		1 異文化体験セミナー 30 1 韓国語(基礎会話) 15	
	大学における	1 スタディスキルセミナー 30 1 情報リテラシー 15				1 情報科学演習 30			
	必修 選択	6	120 2	30 2	30 1	15 1	30 0	0 0	0
専門基礎分野	形態機能学Ⅰ	30	2 形態機能学Ⅲ 30						
	形態機能学Ⅱ	30	2 形態機能学Ⅳ 30						
	生化学(栄養学含)	15	1 病理学 15 2 感染免疫学 30 1 診断・治療学総論 15	2 臨床薬理学 30 2 診断・治療学Ⅰ 30 2 診断・治療学Ⅱ 30	2 診断・治療学Ⅲ 30				
	必修 選択	5	75 10	150 8	120 4	60 2	30 0	0 0	0
5単位以上									
専門科目	看護学科	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	キャリアのナレッジ	1 セルフディプロップメント 15		1 キャリアディプロップメントⅠ 15		1 キャリアディプロップメントⅡ 15		1 キャリアマネジメント 15	
	看護の基礎	2 看護学概論 30 2 看護学援助論 30 1 基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術) 15 1 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 30 1 基礎看護学実習Ⅰ(療養環境実習) 45	1 基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルアセスメント) 15 1 基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルアセスメント) 30 1 基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術) 15 1 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術) 30	1 基礎看護学方法論Ⅳ(看護過程) 15 1 基礎看護学演習Ⅳ(看護過程) 30 1 基礎看護学実習Ⅱ(看護技術実習) 45 1 基礎看護学実習Ⅲ(看護実践実習) 90					
	健康生活と看護			1 成人看護学概論 15 2 成人看護学援助論Ⅰ 30 1 老年看護学概論 15	2 成人看護学援助論Ⅱ 30 2 老年看護学援助論 30	1 成人看護学演習 30 2 成人看護学実習Ⅰ(セルフケア実習) 90 2 成人看護学実習Ⅱ(クリティカルケア実習) 90 2 老年看護学実習Ⅰ(地域高齢者実習) 90 2 老年看護学実習Ⅱ(高齢者生活支援実習) 90			
	地域生活と看護	1 地域生活看護学演習 30	2 地域・在宅看護学概論 30	1 精神看護学概論 15 2 精神看護学援助論 30	2 精神看護学援助論 30 2 地域・在宅看護学援助論 30	1 精神看護学演習 30 2 精神看護学実習 90	2 精神看護学実習 90		
	看護の学びの統合					1 医療安全論 15 1 家族看護学(概論) 15 1 看護倫理学 15 1 看護管理学 15 1 チーム医療論 15 1 公衆衛生看護学概論 15		1 看護教育学 15 1 統合実習Ⅰ(ヘルスマネジメント実習) 45 2 統合実習Ⅱ(多職種連携実習) 90 1 看護研究概論 15 3 看護研究 90	
助産学					2 助産学概論 30 2 基礎助産学 30 2 健康教育技法 30 2 地域母子保健学 30		1 助産診断・技術学概論 15 2 助産診断・技術学Ⅰ(正常な経過) 30 2 助産診断・技術学Ⅱ(異常な経過) 30 2 助産診断・技術学演習 60 1 助産管理学 15 11 助産学実習 495		
必修 選択	9	195 6	120 13	300 12	180 12	270 16	720 4	150 4	105
2単位以上(専門基礎科目+専門科目)									

選択科目 助産選択者のみ履修できる科目

履修単位数 履修上限: 年間43単位	教養	6	2	2	1	1	0	0	0
	専基	5	10	8	4	2	0	0	0
	専門	9	6	13	12	12	16	4	4
年間履修単位数		5単位以上選択		2単位以上選択					
		20	18	23	17	15	16	4	4
		選択科目が5単位履修可		選択科目が3単位履修可					

看護学科 履修モデル(2022年度以後入学生)

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
教養分野	人間の理解	哲学	1		◎			
		日本近現代史		2	△			
		文化人類学		1		△		
		教育学		2	△			
	生活と文化	コミュニケーション論	1		◎			
		家族と社会	1			◎		
		法と人権		1		△		
		生活と経済学		1			△	
		文化と健康		1	△			
		東京の中の多摩を知るセミナー		1	△			
		スポーツレクリエーション		1	▲			
		スポーツ医学		1		▲		
		ボランティアワークセミナー	1		◎			
	人間と環境	生物と進化		1	▲			
		生命科学	1		◎			
		物理学		1	▲			
		環境科学		1	△			
	グローバルコミュニケーション	日本語表現	1		◎			
		英語Ⅰ(読む・書く基礎)	1		◎			
		英語Ⅱ(医療英語)	1			◎		
		英語Ⅲ(日常会話)	1			◎		
		英語Ⅳ(英語論文読解)		1			▲	
		韓国語(基礎会話)		1				△
		異文化体験セミナー		1				△
	大学における学び	スタディスキルセミナー	1		◎			
		情報リテラシー	1		◎			
		情報科学演習	1				◎	
	専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	2		◎		
形態機能学Ⅱ			2		◎			
形態機能学Ⅲ			2		◎			
形態機能学Ⅳ			2		◎			
生化学(栄養学含む)			1		◎			
病理学			1		◎			
臨床薬理学			2			◎		
感染免疫学			2		◎			
診断・治療学総論			1		◎			
診断・治療学Ⅰ			2			◎		
診断・治療学Ⅱ			2			◎		
診断・治療学Ⅲ			2			◎		
臨床心理学			1			◎		
生命倫理			1			◎		
医療と法			1			◎		
保健統計学				1			△	
公衆衛生学(疫学含む)			2			◎		
生涯発達論			2		◎			
社会保障論			1			◎		
専門分野			プロフェッショナルリズムの基盤	セルフディプロップメント	1		◎	
	キャリアディプロップメントⅠ(職業的アイデンティティ)	1				◎		
	キャリアディプロップメントⅡ(キャリアデザイン)	1					◎	
	キャリアマネジメント論			1				△

◎＝必修科目  
△及び▲＝選択科目  
(▲＝履修モデルにて選択)

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
専門分野	看護の基盤	看護学概論	2		◎			
		看護学援助論	2		◎			
		基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1		◎			
		基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎			
		基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎			
		基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1			◎		
		基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1		◎			
		基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎			
		基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎			
		基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	1			◎		
		基礎看護学実習Ⅰ(療養環境実習)	1		◎			
		基礎看護学実習Ⅱ(看護技術実習)	1			◎		
		基礎看護学実習Ⅲ(看護実践実習)	2			◎		
		健康生活と看護	成人看護学概論	1			◎	
	成人看護学援助論Ⅰ(セルフケア)		2			◎		
	成人看護学援助論Ⅱ(クリティカルケア)		2			◎		
	成人看護学演習		1				◎	
	成人看護学実習Ⅰ(セルフケア実習)		2				◎	
	成人看護学実習Ⅱ(クリティカルケア実習)		2				◎	
	老年看護学概論		1			◎		
	老年看護学援助論		2			◎		
	老年看護学演習		1				◎	
	老年看護学実習Ⅰ(地域高齢者実習)		2				◎	
	老年看護学実習Ⅱ(高齢者生活支援実習)		2				◎	
	小児看護学概論		1			◎		
	小児看護学援助論		2			◎		
	小児看護学演習		1				◎	
	小児看護学実習		2				◎	
	母性看護学概論		1			◎		
	母性看護学援助論		2			◎		
	母性看護学演習		1				◎	
	母性看護学実習	2				◎		
	地域生活と看護	精神看護学概論	1			◎		
		精神看護学援助論	2			◎		
		精神看護学演習	1				◎	
		精神看護学実習	2				◎	
		地域・在宅看護学概論	2		◎			
		地域生活看護学演習	1		◎			
		地域・在宅看護学援助論	2			◎		
		地域・在宅看護学演習	1				◎	
		地域・在宅看護学実習	2				◎	
		看護の学びの統合	家族看護学		1			
	医療安全論		1				◎	
	災害看護学		1					◎
	看護倫理学		1				◎	
看護管理学	1					◎		
看護教育学			1				▲	
チーム医療論	1					◎		
公衆衛生看護学概論	1					◎		
統合実習Ⅰ(ヘルスマネジメント実習)	1						◎	
統合実習Ⅱ(多職種連携実習)	2						◎	
看護研究概説	1						◎	
看護研究	3						◎	
専門分野	助産学		助産学概論 ※		2			△
		基礎助産学 ※		2			△	
		健康教育技法 ※		2			△	
		助産診断・技術学概論		1				
		助産診断・技術学Ⅰ(正常な経過)		2				
		助産診断・技術学Ⅱ(異常な経過)		2				
		助産診断・技術学演習		2				
		地域母子保健学 ※		2			△	
		助産管理学		1				
		助産学実習		11				
		必修科目修得単位				38単位	40単位	31単位
履修モデル上修得単位(推奨修得単位)				41単位	41単位	33単位	9単位	合計124単位

◎=必修科目  
△及び▲=選択科目  
(▲=履修モデルにて選択)



看護学科(助産学課程選択者) 履修モデル(2022年度以後入学生)

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
教養分野	人間の理解	哲学	1		◎			
		日本近現代史		2	△			
		文化人類学		1		△		
		教育学		2	△			
	生活と文化	コミュニケーション論	1		◎			
		家族と社会	1			◎		
		法と人権		1		△		
		生活と経済学		1			△	
		文化と健康		1	△			
		東京の中の多摩を知るセミナー		1	△			
		スポーツレクリエーション		1	▲			
		スポーツ医学		1		▲		
		ボランティアワークセミナー	1		◎			
	人間と環境	生物と進化		1	▲			
		生命科学	1		◎			
		物理学		1	▲			
		環境科学		1	△			
	グローバルコミュニケーション	日本語表現	1		◎			
		英語 I (読む・書く基礎)	1		◎			
		英語 II (医療英語)	1			◎		
		英語 III (日常会話)	1			◎		
		英語 IV (英語論文読解)		1			▲	
		韓国語 (基礎会話)		1				△
		異文化体験セミナー		1				△
	大学における学び	スタディスキルセミナー	1		◎			
		情報リテラシー	1		◎			
		情報科学演習	1				◎	
	専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学 I	2		◎		
			形態機能学 II	2		◎		
			形態機能学 III	2		◎		
形態機能学 IV			2		◎			
生化学(栄養学含む)			1		◎			
病理学			1		◎			
臨床薬理学			2			◎		
感染免疫学			2		◎			
診断・治療学総論			1		◎			
診断・治療学 I			2			◎		
診断・治療学 II			2			◎		
診断・治療学 III			2			◎		
臨床心理学			1			◎		
生命倫理			1			◎		
医療と法			1			◎		
保健統計学				1			△	
公衆衛生学(疫学含む)			2			◎		
生涯発達論			2		◎			
社会保障論			1			◎		
専門分野			プロフェッショナルリズムの基盤	セルフディプロップメント	1		◎	
	キャリアディプロップメント I (職業的アイデンティティ)	1				◎		
	キャリアディプロップメント II (キャリアデザイン)	1					◎	
	キャリアマネジメント論			1				△

◎ = 必修科目  
 △ 及び ▲ = 選択科目  
 (▲ = 履修モデルにて選択)

科目区分	授業科目の名称	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
専門分野	看護の基盤	看護学概論	2		◎			
		看護学援助論	2		◎			
		基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1		◎			
		基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎			
		基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎			
		基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1			◎		
		基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1		◎			
		基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎			
		基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎			
		基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	1			◎		
		基礎看護学実習Ⅰ(療養環境実習)	1		◎			
		基礎看護学実習Ⅱ(看護技術実習)	1			◎		
		基礎看護学実習Ⅲ(看護実践実習)	2			◎		
		健康生活と看護	成人看護学概論	1			◎	
	成人看護学援助論Ⅰ(セルフケア)		2			◎		
	成人看護学援助論Ⅱ(クリティカルケア)		2			◎		
	成人看護学演習		1				◎	
	成人看護学実習Ⅰ(セルフケア実習)		2				◎	
	成人看護学実習Ⅱ(クリティカルケア実習)		2				◎	
	老年看護学概論		1			◎		
	老年看護学援助論		2			◎		
	老年看護学演習		1				◎	
	老年看護学実習Ⅰ(地域高齢者実習)		2				◎	
	老年看護学実習Ⅱ(高齢者生活支援実習)		2				◎	
	小児看護学概論		1			◎		
	小児看護学援助論		2			◎		
	小児看護学演習		1				◎	
	小児看護学実習		2				◎	
	母性看護学概論		1			◎		
	母性看護学援助論		2			◎		
	母性看護学演習		1				◎	
	母性看護学実習	2				◎		
	地域生活と看護	精神看護学概論	1			◎		
		精神看護学援助論	2			◎		
		精神看護学演習	1				◎	
		精神看護学実習	2				◎	
		地域・在宅看護学概論	2		◎			
		地域生活看護学演習	1		◎			
		地域・在宅看護学援助論	2			◎		
		地域・在宅看護学演習	1				◎	
		地域・在宅看護学実習	2				◎	
		看護の学びの統合	家族看護学		1			
	医療安全論		1				◎	
	災害看護学		1					◎
	看護倫理学		1				◎	
看護管理学	1					◎		
看護教育学			1				△	
チーム医療論	1					◎		
公衆衛生看護学概論	1					◎		
統合実習Ⅰ(ヘルスマネジメント実習)	1						◎	
統合実習Ⅱ(多職種連携実習)	2						◎	
看護研究概説	1						◎	
看護研究	3						◎	
専門分野	助産学		助産学概論 ※		2			◎
		基礎助産学 ※		2			◎	
		健康教育技法 ※		2			◎	
		助産診断・技術学概論		1				◎
		助産診断・技術学Ⅰ(正常な経過)		2				◎
		助産診断・技術学Ⅱ(異常な経過)		2				◎
		助産診断・技術学演習		2				◎
		地域母子保健学 ※		2			◎	
		助産管理学		1				◎
		助産学実習		11				◎
		必修科目修得単位				38単位	40単位	39単位
履修モデル上修得単位(推奨修得単位)				41単位	41単位	40単位	27単位	合計149単位

◎=必修科目  
△及び▲=選択科目  
(▲=履修モデルにて選択)







## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野  もの の 見 方 ・ 考 え 方	哲学	人間は多様な「考え方」を持っている。その背景には、「主観」「客観」という認識の仕方や、「二元論」「全体論」「関係論」などが潜んでいる。古代ギリシア以来、哲学が「愛知」という意味であることを深く考え、「世界観」「人間観」などの「観」方が「知」によって形成されていることを学ぶ。
	科学と技術	本科目では、「科学的な」と言われる「ものの見方・考え方」と「技術」に貫かれている「操作性」の本質的な違いについて、両者の歴史的発展過程をとおして理解する。
	歴史学	歴史学 (historiography) とは、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問である。この科目をとおして、物事の歴史的見方を学ぶ。
	倫理学	倫理学は、人間の道德規範と善の問題を研究対象とする。「いかに生きるべきか」を根源から問う。本科目では、「他者」に対して「援助行為」をとる看護専門職として、何が「善」であるかなど、人間の価値観がどのように形成されていくのかその基本的な考え方を理解する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野  もの の見方・ 考え方	身体論	近代以来、身体は精神の「入れもの」に位置づけられてきた。また、現代医学は、身体の部分の「入れ替え」を可能にしている。看護学を学ぶ過程では、人間の身体を「形態・機能」として理解する内容がある。本科目は、人間の身体を「形態・機能」とは異なる見方があることを理解し、「身体」という概念を広げ深めることを目標にする。
	生命倫理	現代社会では、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植、死の判定基準等、医療の現場における倫理的諸問題が日常レベルの話題となっている。本科目では、これらの事象に対して、看護専門職としてのアプローチの方向を考える力を醸成することを目標にする。
	情報と人間	情報とは、人間が判断したり行動を起こしたりするために必要な種々の媒体を介しての知識である。つまり、人間は得た知識を「情報」として活用し、それに基づいて判断したり行動を起こしているのである。どのような知識を「情報」とするかは個別性がある。本科目では、人間は情報を必要とし、その活用に関する理論や研究を学ぶ。
	情報活用演習	「情報と人間」の学びをふまえ、「情報リテラシー」として今日の情報活用の方法であるコンピュータを介した活用方法を演習し、情報検索、情報活用の方法を学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野  生 活 と 文 化	家族と社会	家族は、人間のつながりの原点であると言われる。その「つながり」とはなにか。現代は「家族」が崩壊していると言われるが、何が「崩壊」しているのか。家族の有り様と社会の変化との関連を理解し、家族についての考え方を深める。
	文学の中の人間	文学の中には、現実に生きている人間からは知ることが困難な、生きている過程の喜怒哀楽、或いは死の世界のとらえ方など、多様で豊かな「人間像」が表されている。本科目は、文学を通して、「人間観」を深めることを目標にする。
	法と人権	専門職業人としての、態度や志向性を理解するための基礎として、社会生活の中での法の役割・機能・義務と責任や看護に関連する法制度について学ぶ。また、人権を守るとはどういうことなのか、現代の日本社会において生起している人権に関する諸問題について考察することにより、人権擁護に努める態度を養う。
	生活と経済学	人間の生活は経済的活動なしには成立しない。本科目では、経済学の基礎的知識を学び、経済学の観点から人間の生活を理解することを目標とする。



## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野	文化と健康	健康は、単に身体の状態だけの問題ではない。平均余命の延長が示すように、文化の有り様が健康と密接に関連していることを、多くの事例をとおして理解する。
	生活と文化 東京の中の多摩を知るセミナー	大学は「学問の府」といわれるが、その「所在」の環境は、「大学」の発展と学生の学びに密接に関係している。本大学が所在する「東京」と「多摩」をキーワードにして、「地域環境」を知ること、「地域社会の発展」について実践的活動を通して考える。
	芸術論	芸術は人間の感性を磨くと言われる。美しさとは何か、人間がなぜ美しいものに感動するのか、「心を豊かにする」、「情緒に溢れる」「深く心にしみいる」「人間が魂を揺さぶられる」等等、「感性を磨くとはどのようなことか」について、音楽鑑賞等を通して体験的に理解すると共に、自身の生き方の中で感性を豊かに磨き続ける契機とする。また、社会、文化における芸術の位置づけを考察する。
	人間と環境 生物と進化	生物にかかわる現象について、生命と生物の視点でわかりやすく学ぶ。特に、個体としての生命や種の維持のための生殖や進化についても概観する。高等学校で生物を履修していない学生の生物の導入的授業でもある。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野	人間と環境	生命科学
		本科目では、生命現象の基本について理解を深め、遺伝子診断や遺伝子組み換え食品など、日常生活における生物学的な諸問題を理解し、適切に判断できることを目標とする。
		物理学
		本科目では、物理現象の基礎となる単位の理解、力のバランスや速度・加速度などの物体の動き、気体や流体の圧力に関する基礎的知識を学び、看護ケアや医療機器操作の基本的原理を理解することを目標にする。
	環境科学	地球環境、自然生態系の特徴を人間の活動との相互関係から理解する。いわゆる環境問題は、生物、無機的自然環境と人間の科学的・技術的発展、経済的発展、文化・生活様式の発展は密接に関連していることを歴史的経緯を踏まえつつ理解し考察する。
グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	コミュニケーションとは、人間のみならず、あらゆる生命体が他者や環境との間で、モノ、情報、価値、意味の交換をし、それに基づいた相互作用として理解されている。本科目では、日常経験と神経生理学的、対人的、組織的水準から人間のコミュニケーションについて比較検討し、「相互作用」の意味の理解を深める。また、非言語／言語的コミュニケーション、説明、社会的交換、交流分析、生産的議論等の処理論を学び、看護専門職としてのコミュニケーションのあり方を考究する基盤とする。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野  グローバル コミュニケー ション	日本語表現	日常生活において人々は、自由自在に自国語（日本語）を操っている。一方、言葉は時代や社会と共に変化し、同時代に生きながら、異なる年代間の相互理解が困難な現象も見られる。本科目では、学生自身が日常使用している「日本語」の表現について「対象化」して見つめ、考えることを目標にする。
	英語Ⅰ (読む・書く基礎Ⅰ)	高等学校までに学んだ基礎的な英語の知識を補完しながら、高等学校までの簡単な文法の知識をもとに、書くことと読むことの基礎的学習を行う。
	英語Ⅱ (読む・書く基礎Ⅱ)	英語Ⅰよりもやや難しい内容の文章（エッセイ等）を扱い、論旨の的確な読み取りと書けることを目標にする。
	英語Ⅲ (医療英語)	人体の構造と機能の名称、診断・治療の名称、医療機器の名称およびそれらに関連した看護に関する用語の英語表現を学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野	英語Ⅳ (日常会話)	今日では、英語はグローバル言語として、異なる言語を持つ諸外国の人々とのコミュニケーション手段として使用されている。相手の母国語を知らなくとも、日常の会話ができるようになることを目標にする。
	英語Ⅴ (英語論文読解)	看護学の学びの中には、ある事柄についての根拠や原理に関する理論や研究的知見、諸事象についての異なる考え方、解釈を知ることが含まれている。それらを理解するために、その内容が表示された「原文」(多くは、英語)を読めるようになることを目標に学習する。
	韓国語(基礎会話)	国際的視野拡大のために隣国韓国の文化に触れながら、韓国語であいさつ・自己紹介ができる基礎会話について学ぶ。
	異文化体験セミナー	「異文化」を手がかりとした他者理解の実践を行う。人間を様々な価値観や習慣、生活様式を持つ集団の中に生まれ、育ち、死んでいくものとしての理解をしていくセミナーである。価値観が多様化・個別化していると言われる現代において、他者を自分とのつながりにおいて考えることを学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養分野  大学における学び	学習と教育	一般に、人間は教えられて学習すると捉えられている。また、人間はこどもへの教育を組織的に授ける体制を整えてきた。本科目では、こうした既存の考え方から脱して、「人間は本来学習する存在である」ということ、その観点から見たときの「教育」のあり方を考察する。
	スタディスキルセミナー	大学における学習では、高校までの学びと異なり、「講義」「演習」「実習」「セミナー」等をとおして、「与えられる」学習から、授業内容について、自ら「意味」を読み取り、深め、広く考えられるようになることが重要である。そのために、大学生としてのスタディスキルを磨くことには、十分な意味がある。具体的には、「ノートテイキング」「プレゼンテーションのスキル」、「図書、図書館」の効果的な活用等についての効果的な方法を習得する。
	問題解決技法	人間は様々な問題に遭遇して生きている。問題を解決するには、手当たり次第の方法もあるが、本科目では、その問題を見極め、解決方法を探り、計画的に解決していくという「問題解決技法」を学び、日常の問題解決のみならず、看護における計画的展開の基礎とする。
	ボランティアワークセミナー	人間は、社会の中で、誰かに依頼されたり、仕事や義務として決まっているわけでもないが、他者に手をさしのべたり、またさしのべられたりして生きている。いわゆる「共生」社会は、人間のこのような「主体的」「自主的な」関わりの行為によって成り立っている。本セミナーでは、ボランティア活動の実践や、「共生」社会についての理論研究、実践事例の研究、学生相互の討論や発表などをおして、人間は本来的に主体的であり、自主的であることを、自らの活動を通して学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門 基礎分野	専門 基礎科目	<p>形態機能学Ⅰ</p> <p>「人間」を理解する仕方の一つに、身体の形態とその機能から捉える見方がある。人の身体の形態はどのような構造をしているのか、その構造はどのような機能をもっているのか、その機能はどのように調節されているのか、その構造と機能は、どのように日常生活と関連しているのかを理解し、病理学、診断・治療学、および看護学の基礎とする。</p> <p>形態機能学Ⅰでは、人体の基本構造としての細胞、組織、器官系、および成長、老化、生殖の過程また、人体の恒常性について、ホメオダイナミックス（動的平衡）という見方から学ぶ。</p>
	形態機能学Ⅱ	<p>形態機能学Ⅱでは、形態機能学Ⅰを踏まえ、骨格系、筋系、脳・神経系、皮膚・感覚器系の構造と機能を理解し、人間の日常の行動がどのように形作られているかを理解し、睡眠と休息、運動が不可欠であること、そのメカニズムについて理解する。</p>
専門 基礎分野	専門 基礎科目	<p>形態機能学Ⅲ</p> <p>形態機能学Ⅲでは、消化器系、呼吸器系、循環器系の構造と機能について、各々を関連付けながら理解する。</p>
	形態機能学Ⅳ	<p>形態機能学Ⅳでは、腎・泌尿器系の構造と機能について、形態機能学Ⅲで学んだ循環器系と関連づけながら、日常の排泄行動について理解する。また、人間の生殖器の構造と機能について理解する。</p>

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門基礎分野  専門基礎科目	生化学 (栄養学含)	本科目は、体内で行われる正常な物質の働きを知り、物質レベルの基本的な生化学を理解した上で、食事として摂取された物質の働きという視点での栄養学について学ぶ。
	病理学	人のからだに生じている病的変化がどのように成り立っているのかを、特徴的な組織・細胞から、循環障害、炎症、代謝障害、先天異常、腫瘍の5病変から総論的に概観し様々な病気や病態を理解するための基礎的知識を学ぶ。
	臨床薬理学	薬はなぜ効くのか。薬効とはなにか。薬と生体との相互作用とそのメカニズム、薬効に影響を及ぼす要因について理解し、薬による疾病の予防、治療に関する基礎的知識を学ぶ。また、臨床で使用される薬に関連する法律と薬の取り扱いと管理のあり方を理解する。
	感染免疫学	人間と微生物との関係から感染症の成立過程および微生物に対する人間の防御機構を理解する。具体的内容は、ヒトと感染・感染症の機構と種類、免疫と生体防御機構、感染症の予防と感染防御対策等を学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門基礎分野  専門基礎科目	診断・治療学Ⅰ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅰでは呼吸器系・循環器系・消化器系・血液系・内分泌系・アレルギー疾患等を中心に学ぶ。
	診断・治療学Ⅱ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅱでは母性に関するもの、小児疾患に関するものを中心に学ぶ。
	診断・治療学Ⅲ	形態機能学Ⅰ～Ⅳ、病理学を基礎として主要な疾病の病態と治療を学習する。診断・治療学Ⅲでは精神障害および老年疾患について学ぶ。
	臨床心理学	現代社会において人々は、多様な心理的問題を抱えながら生きている。人々の精神的健康の維持・増進を援助するためには、心理的問題を抱えながら生きていることについて理解し、それらを予測し、軽減するための援助に関する知識を必要とする。具体的には、カウンセリング、心理療法、集団心理療法、家族療法など、パーソナリティを理解するための基礎的知識を学習する。



## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門基礎分野  専門基礎科目	医療と法	専門職業人として、変動する保健医療福祉の現場に対応した各種法律や施策について学ぶ。特に、保健師助産師看護師法を中心とした看護に関する法、医療に関する法、保健衛生に関する法、薬事・環境に関する法、社会福祉・保険に関する法、労働に関する法を概観し医療と法について学習する。
	保健統計学	本科目は健康問題の健康指標を正しく理解するために、統計資料の読み方や統計調査の方法について学ぶ。健康に関する人口統計指標や国民・地域住民の保健衛生状態について健康指標の意味するものについても概観する。
	疫学	疫学は、人間集団の健康現象に着目して、それに関連する要因の頻度の分布を明らかにし、疾病の予防、ケア活動の根拠となる学問である。疫学の方法論、サーベイランス、スクリーニング等を理解し、健康事象を説明するために必要なプロセス（データ収集、分析、評価）を学習する。
	生涯発達論	人間を生涯にわたって発達する存在としてとらえ、胎生期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期、老年期の各期を身体的、心理的、社会的発達の側面から理解する。発達の基本概念と発達理論についても学び、発達の視点に基づく学習を深める。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門 基礎分野	専門 基礎科目	<p>社会保障論</p> <p>看護専門職として個人や集団に対して社会保障制度の活用や、保健・医療・福祉サービスの連携を行うために社会保障や社会福祉制度について深く学ぶ。社会保障の歴史的変遷を概観し現代社会の変化や社会保障・社会福祉の動向から各種法律や政策についても学習する。</p>
	チーム医療論	<p>看護専門職として、保健医療福祉を含めた総合的なサービスを提供するために、病気や障害を抱えた対象の問題に対してどのようにチームアプローチをするかを学ぶ。他の専門職種や職種間コミュニケーションについても概観する。</p>
専門 分野	看護の 専門職性の 発展の 基盤	<p>専門職の世界</p> <p>「専門職」と言われる職業、それに携わっている人々の考え方、活動、世界観、価値観、人間観（他者との関係）、倫理観（専門職倫理）、職業観を概観しながら学び、「専門職の世界」がどのような世界かを知る。 Vocation, occupation, profession, calling各々の意味およびボランティアとの相違についても考える。同業他者との交流や他領域との交流や社会における看護職への期待も考察する。一年次の演習科目である。</p>
	セルフディ プロップ メント	<p>人間の多様性の理解と個人の尊厳（考え方、心理的状态、身体的相違、文化、言語、生活様式、価値観）、自己と他者、関係性、アイデンティティ、人間としての成長（考え方の発展、経験の蓄積、健康維持・増進）を概観し自己省察と自己の成長発展を考える。看護の専門職性の発展の基盤となる科目であり、「専門職の世界」と共に、1年次の演習科目である。</p>

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護の専門職性の発展の基盤	キャリアディベ ロップメント	看護職としてのキャリアの多様性とキャリアデザイン（内的キャリア-外的キャリア）、職業的アイデンティティ、職業の社会的位置づけ等、看護専門職としての発展を多角的に考える。2年次の演習科目である。
	医療チーム内のマ ネジメント	看護ケアの特徴（ケアにおける個人的関わりと組織的関わり《コミュニケーションの質》）、看護チームの構成（「新人、中堅、ベテラン」、「プリセプター、リーダー、管理的責任者」）調整の必要性、看護チームにおける協働のマネジメントから看護の質について考える。3年次の演習科目である。
	医療以外の多職種 との交流と発展	看護の発展に必要な多職種との交流や共同とネットワークについて考える。4年次での演習科目であり、1年次、2年次、3年次の学習が進むにしたがって漸次積み上げた最後の学習となる。
	キャリアマネジメ ント論	「キャリアディベロップメント」で理解した「キャリア」の意味を、さらに「教育と学習の機会（卒後教育、継続教育）」、「雇用-報酬-昇進」などについて考察を深め、看護の専門職としてのキャリアを「マネジメント」することについての理解を深める。4年次の演習（選択科目）である。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	基礎看護学概論	看護を学ぶスタートとして「看護とは」を考える導入的な科目である。看護の歴史の変遷から看護の発展過程を概観するとともに、看護の目的や役割機能、先人の看護理論や看護実践の構造についても学ぶ。また、社会の中での看護実践を支える法（保健師助産師看護師法等）や看護倫理綱領から倫理的根拠についても概説する。
	看護学援助論	看護は、「看護」という「援助関係」の構築の過程であると言える。したがって、看護を理解するということは、対象者との「援助関係」とはどのようなものであるかを理解することが不可欠である。本科目では、人間の社会における多様な「援助関係」について知るとともに、「看護」という「援助」とその「関係」の有り方について理解する。
	看護学技術論	看護実践としての技術の概念的理解をする。特に、看護技術の意味するもの、看護実践における看護技術の位置づけ、看護技術の特性についての理解を深め、看護技術習得のための動機づけとする。
	基礎看護学方法論 I (生活援助技術)	看護の対象である生活する人間の生命活動および日常生活上のニーズについて理解を深め、健康維持・向上や回復を援助するための基礎を学ぶ。環境、食事、排泄、清潔、睡眠等の日常生活行動の持つ意味、およびニーズを充足するために必要な援助方法について学ぶ。看護実践における安全、安楽、自立、感染予防、ボディメカニクス、環境に関する原理原則について学習する。感染予防としての標準予防策、ボディメカニクスの基礎としての良肢位の保持と安楽な体位や体位変換、病床環境について学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	基礎看護学方法論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	ヘルスアセスメントの概念を理解し、基本的なフィジカルアセスメントについて学ぶ。対象の何を、どうみるかを考えながら、症状や徴候から情報を収集し、状態を判断する過程を学ぶ。
	基礎看護学方法論Ⅲ (臨床看護技術)	検査・治療過程における看護職者の役割について理解し、検査・治療に伴う基礎的な知識や技術について学ぶ。特に、検査時の看護、薬物療法中の看護、創傷の管理、標準感染予防策、医療機器の取り扱い、救急法について理解する。
	基礎看護学方法論Ⅳ (看護の計画的展開)	対象者に適切な看護を提供するための観察・情報収集と分析の方法およびその根底にある考え方を学ぶ。看護を計画的で系統的に実践する意味を理解し、そのための展開方法について学ぶ。
	基礎看護学演習Ⅰ (生活援助技術)	方法論Ⅰで学んだ科学的根拠を踏まえ、基本的な生活援助技術について、安全で安楽な援助技術の基本を習得する。この演習では、生活援助技術の形・型を習得することよりも、なぜそのような形・型をとる必要があるかを検討したり、他の方法を検討したりすることを重視する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	基礎看護学演習Ⅱ (フィジカルアセスメント)	方法論Ⅱで学んだ内容に基づき、フィジカルアセスメント情報の収集の方法を演習をとおして習得する。具体的には、健康歴のインタビューの方法、身体各部位のアセスメントの方法(視診、触診、打診、聴診)、身体機能のアセスメントの方法を習得する。
	基礎看護学演習Ⅲ (臨床看護技術)	方法論Ⅲで学んだ内容に基づき、薬物療法中の看護、創傷の管理、標準感染予防策、医療機器の取り扱い、救急法について具体的に演習を行う。
	基礎看護学演習Ⅳ (看護の計画的展開)	方法論Ⅳで学んだ内容について、看護を計画的に展開するというその実際をシミュレーションを通して学ぶ。具体的には、「計画」を立案するまでの過程と「計画の実施」の間で、援助の対象者の「変化」があること、その「変化」にどのように対応するかを考えられるようになることを重視する。
	基礎看護学実習Ⅰ	病院における看護活動、療養者の生活の場である病院環境と看護の役割機能について知る。入学直後の「病院見学」をすることにより、「医療」「看護」という世界を知ることへの「導入」とし、大学において看護学を学ぶ動機付けとする。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅰに続く実習である。一日の看護活動の見学や参加体験、患者とのコミュニケーションを通して、「医療」「看護」における関わりは、「コミュニケーション」という関係形成によって成立していることを知り、看護学における「関わり形成」の重要性を学ぶ動機づけとする。
	基礎看護学実習Ⅲ	医療機関において、日常生活に関する看護実践過程を展開することで、看護実践力の基本を学び看護観の醸成をすることをねらいとする。具体的には、対象の健康状態と日常生活の観点から、対象に適した看護技術を安全に提供すること、実践過程を通して対象との援助関係を形成する体験をする。初めて、看護の対象者を「受け持つて」実践する。
	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解し、成人期にある対象の特徴・発達課題および成人期の生活と健康に影響を及ぼす諸因子について学ぶ。①成人期の特徴②成人期の生活と健康③保健・医療・福祉システム④看護アプローチの基本⑤成人看護に有用な理論等を学ぶ。
	成人看護学方法論Ⅰ	慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象の健康障害について理解し、疾病の認知や受容、セルフケア能力を高めるための援助、家族サポートについて学ぶ。 ①慢性の呼吸機能障害を持つ対象の支援 ②慢性の代謝機能障害を持つ対象の支援 ③慢性の内部環境調節機能障害を持つ対象の支援 ④慢性の栄養摂取・消化機能障害を持つ対象の支援

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	成人看護学方法論Ⅱ	急性期から回復期にある成人期の対象を理解し、侵襲的治療を受ける対象やその家族のQOLを高めるための看護実践について学ぶ。 ①急性の循環機能障害を持つ対象の看護 ②急性の消化・吸収機能障害を持つ対象の看護 ③急性の呼吸機能障害を持つ対象の看護
	成人看護学方法論Ⅲ	生活の再構築が必要な成人期にある対象の健康障害について理解し、生活の再構築を支援するための看護実践について学ぶ。 ①運動機能障害を持つ患者の対象の再構築支援 ②消化・吸収機能障害を持つ対象の生活の再構築支援 ③性・生殖機能障害を持つ対象の生活の再構築支援 ④脳・神経機能障害を持つ対象の生活再構築支援
	成人看護学方法論Ⅳ	成人期にある対象の健康障害について学び、がん疾患を持つ対象の看護を実践するために必要な知識・技術・態度について事例を通して学ぶ。 がん疾患を持つ成人期にある対象とその家族への支援を通して、①化学療法②放射線療法③がん性疼痛④死をめぐる意志決定を余儀なくされている対象者の苦痛を深く理解し、グリーフケアの必要性とそのあり方を学ぶ。
	成人看護学演習	方法論Ⅰ～Ⅳでの学習内容を臨地実習で活用できることを目的とした演習を行う。具体的には、呼吸管理、循環管理（点滴管理を含む）、感染管理等について、事例を通して学ぶ。



## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野	看護実践の基盤	
	成人看護学実習 I	成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールが必要な成人期にある対象の特徴を理解し、疾病・障害の受容、生活の再構築、セルフケアにむけた看護実践について学ぶ。
	成人看護学実習 II	成人期の健康課題・問題を持つ対象と家族への看護実践能力を習得する。具体的には、手術療法を必要とする患者の特徴を理解し、急性期から回復期における看護実践について学ぶ。
	老年看護学概論	老年期にある対象の発達課題および加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴を理解し、老年期にある対象とその家族に看護を提供するために必要な機能と役割について学ぶ。また、高齢社会の動向を通して、高齢者の生活に関連する保健医療福祉の現状と課題についても概観する。
	老年看護学援助論	老年期にある様々な健康状況の対象とその家族の看護に必要な基礎的知識について学ぶ。特に高齢者の生活の機能の基本を理解し、生活を維持・増進するための看護について学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	老年看護学方法論	治療処置を受ける高齢者の看護を学び、高齢者看護の特徴を理解する。あわせて、認知症高齢者の看護や老年期における終末期ケアの特徴と援助の方法について理解する。
	老年看護学演習	高齢者の生活を支える看護技術について学ぶ。 ①高齢者の皮膚の清潔②高齢者の食事援助③高齢者の口腔ケアと義歯の取り扱い方④排泄の援助⑤高齢者の歩行と運動⑥高齢者の脱水と褥瘡予防等
	老年看護学実習Ⅰ	療養中の健康障害を持つ老年期の対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、加齢現象と健康障害が関連して起こる問題について考える。
	老年看護学実習Ⅱ	終末期にある健康障害を持つ老年期にある対象を理解し、個々の状態に応じた看護実践について学ぶ。特に、対象の生活史を踏まえながら、苦痛の緩和やQOLについて考え看取りの看護について考える。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	小児看護学概論	人間のライフサイクルのスタートである小児期の成長発達、人間の生涯発達に大きく影響する。未成熟であるがゆえに、様々な疾患に罹患したり、事故にも遭遇しやすい。この授業では、小児各期における成長発達を土台に、健康な小児の日常生活や現代社会を取り巻く諸問題や子育て支援についても概観する。
	小児看護学方法論Ⅰ	疾病や入院が小児とその家族に与える影響と援助について理解する。 ①各発達段階にある健康を障害された小児の看護 ②疾病や入院による影響 ③ストレスを緩和するための看護 ④入院中の小児の医療安全・小児の事故 ⑤活動制限の必要な小児と家族の看護 ⑥隔離が必要な小児と家族の看護
	小児看護学方法論Ⅱ	疾病や入院が小児とその家族に与える影響と援助について理解する。特に、看護の計画的実践を行うための健康上のアセスメントについて理解を深める。また、保健・医療・福祉チームとの連携についても学ぶ。 ①長期経過をたどる小児と家族の看護 ②急性症状のある小児と家族の看護 ③手術を受ける小児と家族の看護 ④痛みのある小児と家族の看護 ⑤終末期にある小児と家族の看護
	小児看護学演習	小児期にある対象とその家族を理解し、成長・発達段階、健康状態に応じた看護実践について学ぶ。看護事例を用いながら、バイタルサイン測定・身体計測、酸素療法、与薬方法、点滴固定、採尿、腰椎穿刺時の固定、ベッド上での安静方法等を学習する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	小児看護学実習	小児期の成長発達の特徴および、その成長発達過程における疾患、障害を持つ意味についての理解を踏まえ、実際に入院中の小児のケアを通して、児自身への援助のみならず、家族への援助も学習する。
	母性看護学概論	女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における身体的・心理社会的な健康状態の特徴と健康課題およびその看護について理解する。また、母性看護や生命倫理、母性看護の歴史の変遷について理解する。さらに母子保健の変遷と動向をリプロダクティブヘルス・ライツの視点からグローバルに学び、現代社会の問題を女性とパートナーへの支援としての母性・父性の概念についても概観する。
	母性看護学方法論Ⅰ	妊娠期・分娩期の生理的变化と適応、および母親と家族の心理的变化について理解し、ヘルスアセスメントの視点に必要な看護と保健指導について学ぶ。
	母性看護学方法論Ⅱ	産褥期・新生児期の生理的な変化と適応、および母子に必要な看護と保健指導、母親役割、父親役割について学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門分野	看護実践の基盤	母性看護学演習	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期のケアに特有の看護技術を習得する。具体的には、「妊婦の健康診査」「面接技術」「分娩期の呼吸法と補助動作」「乳房ケア」「子宮復古への援助」「バイタルサイン測定」「沐浴と諸計測」等を習得する。
		母性看護学実習	母性看護の対象（妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、生命の尊厳について学ぶ。
		精神看護学概論	精神看護と精神医療の概念をとらえ、それらに関する法律や制度および地域社会における精神保健について学ぶ。さらに、我が国の精神保健医療および福祉制度の現状と課題について学ぶ。
		精神看護学援助論	本科目では精神看護における援助の考え方として、精神看護における患者－看護者関係のあり方、心の健康の保持増進への援助、精神障害者との関わり方、セルフケアの援助、患者家族の理解と援助について、看護の倫理と人権擁護と共に理解する。また、地域精神保健活動における資源の活用などを含めた精神看護における看護の実際を事例を通して学び、理解を深める。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	精神看護学演習	心の健康の保持増進を行うための援助および精神看護に特有な援助技術について、「関わり」の在り方や「その過程」を振り返る方法を「演習」する。
	精神看護学実習	精神に障害を持った対象を理解し、個別的な看護実践について学ぶ。特に、対象との関係を形成する対人関係技術と精神状態をアセスメントする技術を用いて、対象に現れている精神症状が、日常生活行動にどのように影響しているかを知り、日常生活行動の維持向上にむけた看護実践について学ぶ。また、対象とのコミュニケーションを通して、自分自身を見つめ、自己洞察する力や共感的に理解する力を養う。
	在宅看護学概論	地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を学ぶとともに、在宅で療養する人々を取り巻く社会の変化と生活の質の重視、自己決定の尊重等の人々の価値観の変化、保健・医療・福祉等の諸制度、関連職種との連携・協働のあり方の理解を通して、看護の役割を学ぶ。
	在宅看護学方法論	地域で生活しながら療養する人々とその家族が心身の健康を維持し、生活の自立への支援のために必要な看護の方法について学ぶ。また、在宅ケアにおけるコーディネーターとしての看護の役割と機能についても理解する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野	在宅看護学演習	在宅における看護技術について演習を行い、在宅療養者やその家族に安全な援助が提供できる方法を理解する。 ①在宅看護用具の工夫②健康状態に応じた生活行動援助③在宅コミュニケーション技術④訪問演習
	在宅看護学実習	在宅で生活・療養している人々とその家族を理解し、在宅看護が実践できる基礎的な能力を養う。訪問看護ステーション・地域包括支援センターにおける役割や機能について、実践を通して学ぶ。
	医療安全論	人間の生存にとっての安全の重要性を認識し、看護・医療における安全の確立に向けた考え方を学ぶ。 ①人間の生存と安全 ②安全の確立と人間の能力 ③安全確立と社会システム・文化 ④看護・医療における安全の問題 ⑤安全と看護・医療の専門性（自立性、倫理性、責任と義務） ⑥安全と看護・医療の専門性（危険の予測・識別・回避） ⑦看護・医療における安全に対する価値づけと文化の醸成
	災害看護学	災害時における医療の特色と看護のあり方について理解する。 ①災害時に看護が果たす役割 ②災害サイクルに沿った看護 ③トリアージ ④災害が人々の生命や生活に及ぼす影響

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	看護倫理学	教養分野における「倫理学」および「生命倫理」の理解を踏まえ、倫理の原則や倫理規定から、看護職に求められる倫理について学習するとともに、現在の医療・看護の場において看護職が遭遇する倫理的問題・ジレンマ等についての学習を通して、看護職としての倫理観を構築すること、さらに、倫理的問題解決のために活用できる理論・対処方略について学習し、倫理的視点から看護職として適切な判断・行動が取れるようになることをねらいとする。
	公衆衛生看護学概論	3年次までに学習した個人および家族への看護を踏まえ、公衆衛生看護の理念、目的、活動の方法を学び、人間の健康とその援助について、生活環境や社会情勢の変化に対応しつつ、個人のみならず地域・集団を対象とした人々の健康維持・増進への援助について考察し、看護の考え方の幅を広げることを目的とする。
	統合実習Ⅰ	3年間学んだ、実習を中心とした既習の知識や技術を統合させて、学びの総括から、自己の課題を見出すことを主眼とした1週間の実習である。
	統合実習Ⅱ	今までの実習での学びを統合し、看護・医療チームの一員として、援助の優先順位や時間管理を考慮した看護実践について学び、看護専門職としての自己の将来像をイメージしながら看護活動を統合することを目指した実習である。



## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	助産学概論	人の一生を通して、性と生殖について支援する助産師の役割と責務について、歴史的な変遷を振り返りながら学び、助産学の特性を理解する。
	基礎助産学Ⅰ	専門基礎分野の「形態機能学Ⅲ」、「診断・治療学Ⅱ」および「母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ」の理解を深めつつ、妊・産・褥婦の生理と病態、新生児、乳幼児の生理と病態および助産関連の基礎医学について助産学の基礎として理解を深める。
	基礎助産学Ⅱ	専門基礎科目で習得した「リプロダクション系」の形態と機能の理解を踏まえ、母子の健康に係わる妊婦・胎児・乳幼児の栄養と母子の健康に影響する環境要因について理解する。
	健康教育技法	リプロダクティブヘルスの考え方を基盤にして、女性とその家族の健康支援に関する看護の役割の理解を基に、健康教育の方法、カウンセリングに関する基礎知識およびカウンセリング技法について学ぶ。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	助産診断・技術学概論	妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期のケアに必要なアセスメント、助産技術の基本原理と技術について総論的に学ぶ。
	助産診断・技術学方法論	助産過程の展開に必要な知識・技術について学ぶ。また、妊婦・褥婦・新生児の健康状態に関するアセスメントおよび具体的支援方法について学ぶ。
	助産診断・技術学演習Ⅰ	妊娠経過の正常・異常を診断するための理解と、最新の診断技術について習得する。また、妊産婦の主体性を尊重した出産を支援する意味についても学ぶ。 ①妊娠期の助産診断に必要な健康診査 ②妊娠期に必要な助産技術（超音波等） ③妊娠期に必要な助産技術（CTGの判読と対応） ④妊娠期の保健指導④妊娠期の集団指導・個別指導（ハイリスク妊産婦）
	助産診断・技術学演習Ⅱ	分娩期の診断と、正常経過にある産婦のケアについての演習を行う。また、分娩期における緊急事態（会陰の切開および裂傷に伴う縫合、新生児蘇生、止血処置、児の異常に対する産婦・家族への支援等）やハイリスク事例の対応について学ぶ。分娩各期に必要な助産技術、介助術の意義を理解する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護実践の基盤	助産診断・技術学演習Ⅲ	褥婦の健康生活と新生児の育児の援助に必要な技術について習得する。また、ハイリスク褥婦・新生児の援助についても学ぶ。新生児出生直後の健康評価と処置（鼻口腔吸引、臍帯切断）、全身観察（奇形の有無等）の技術を理解する。胎児附属物の観察と計測技術を理解する。ハイリスク褥婦へのカウンセリング技法について学ぶ。
	地域母子保健学	住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供できるための知識および保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら地域の母子保健を推進することを学ぶ。
	助産管理学	助産業務についての管理、助産師に関連する各種関係法規、助産所の管理・運営についての基本や周産期医療システムについても広く学ぶことを目標にしている。また、周産期における医療安全の確保と医療事故への対応についても学ぶ。
	助産学実習	助産の対象となる人々に対して、科学的根拠に基づく助産診断・技術を統合した助産活動を実践することを通して、助産における看護実践能力を高めることを目的にしている。実習を通して助産実践に関わるアセスメント能力、助産技術を習得する。また、助産診断に基づき、正常分娩に関する助産技術を習得する。母子及び家族に関しては、助産学の視点から母子や家族の健康を増進し、地域への継続した支援に繋がる援助ができることを目指している。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野	看護の探究 I	看護の知を探究する能力の基盤を形成するために、看護実践における質的量的に異なる多様な疑問や、学問的問いを具体的な形にして問い、その知を明確化するための基礎的な作法を学ぶ。 ①問いのたちあがり ②知の検索の方法 (質的・量的) ③探究方法 (what・why・howを探究する) ④批判の方法 (知の確かさ・不確かさ) ⑤研究と論文の作法
	看護の探究 II (基礎看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、基礎看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。
	看護の探究 III (成人看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、成人看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。
	看護の探究 IV (老年看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、老年看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門分野  看護の探究の基盤	看護の探究V (小児看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、小児看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。
	看護の探究VI (母性看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、母性看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。
	看護の探究VII (精神看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、精神看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。
	看護の探究VIII (在宅看護学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、在宅看護学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。

## 授業科目の概要

(保健医療学部看護学科) 2016年度～2021年度入学生

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
専門分野	看護の探究の基盤	看護の探究IX (助産学領域研究)	看護の探究 I の学習を受けて、助産学領域における研究疑問に基づき、研究テーマを選択し、研究方法の計画、実施、論文の作成を実施する。

看護学科 履修系統図(2016年度～2021年度入学生)

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養分野	もの見方・考え方	哲学 身体論	科学と技術	歴史学 倫理学 情報と人間	生命倫理 情報活用演習			
	生活と文化		東京の中の多摩を知るセミナー	法と人権 文化と健康	家族と社会 文学の中の人間 生活と経済学		芸術論	
	人間と環境	生物と進化 物理学	生命科学				環境科学	
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論 英語Ⅰ(読む・書く基礎Ⅰ)	日本語表現 英語Ⅱ(読む・書く基礎Ⅱ)	英語Ⅲ(医療英語)	英語Ⅳ(日常会話)	英語Ⅴ(英語論文読解)	異文化体験セミナー	韓国語(基礎会話)
	大学における学び	学習と教育 スタディスキルセミナー				問題解決技法 ボランティアワークセミナー		
専門基礎分野	専門基礎科目	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 生化学(栄養学含)	形態機能学Ⅲ 形態機能学Ⅳ 病理学 感染免疫学 生涯発達論	臨床薬理学 診断・治療学Ⅰ 診断・治療学Ⅱ 医療と法	診断・治療学Ⅲ 社会保障論	臨床心理学 保健統計学 疫学 チーム医療論		
	看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界 セルフディプロップメント	キャリアディプロップメント		医療チーム内のマネジメント	医療以外の多職種との交流と発展 キャリアマネジメント論		
専門科目	看護実践の基盤	基礎看護学概論 看護学援助論 看護学技術論 基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術) 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅱ(シミュレーション) 基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術) 基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学演習Ⅱ(シミュレーション) 基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開) 基礎看護学実習Ⅲ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅱ 老年看護学概論 老年看護学援助論 小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 母性看護学概論 母性看護学方法論Ⅰ 精神看護学概論	成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学演習 老年看護学方法論 老年看護学演習 小児看護学方法論Ⅱ 小児看護学演習 母性看護学方法論Ⅱ 母性看護学演習 精神看護学援助論 精神看護学演習	在宅看護学概論 在宅看護学方法論 在宅看護学演習 医療安全論 公衆衛生看護学概論 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習	看護倫理学 統合実習Ⅰ 統合実習Ⅱ	災害看護学
	看護の探究の基盤	看護の探究Ⅰ				助産学概論 基礎助産学Ⅰ 基礎助産学Ⅱ 健康教育技法 助産診断・技術学概論 助産診断・技術学方法論 助産管理学 助産診断・技術学演習Ⅰ	助産診断・技術学演習Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅲ 地域母子保健学	助産学実習
	看護の探究の基盤							看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究) 看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究) 看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究) 看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究) 看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究) 看護の探究Ⅶ(精神看護学領域研究) 看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究) 看護の探究Ⅷ(助産学領域研究)

看護学科 履修モデル(2016年度～2021年度入学生)

科目区分	授業科目	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考	
		必修	選択						
教養分野	哲学	2		◎				◎=必修科目 △及び▲=選択科目 (▲=履修モデルにて選択)	
	科学と技術	1		◎					
	歴史学	1			◎				
	倫理学	1			◎				
	身体論	1		◎					
	生命倫理	1	1			▲			
	情報と人間	1			◎				
	情報活用演習		1			▲			
	家族と社会		1			▲			
	文学の中の人間		1			△			
	法と人権		1		▲				
	生活と経済学		1			△			
	文化と健康	1		◎					
	東京の中の多摩を知るセミナー		1	▲					
	芸術論		1				△		
	人間と環境	生物と進化		1	▲				
		生命科学	1		◎				
		物理学		1	▲				
		環境科学		1			▲		
	グローバルコミュニケーション	コミュニケーション論	1		◎				
		日本語表現	1		◎				
		英語Ⅰ(読む・書く基礎Ⅰ)	1		◎				
		英語Ⅱ(読む・書く基礎Ⅱ)	1		◎				
		英語Ⅲ(医療英語)	1			◎			
		英語Ⅳ(日常会話)	1			◎			
		英語Ⅴ(英語論文読解)		1			▲		
		韓国語(基礎会話)		1			△		
		異文化体験セミナー		1			▲		
	大学における学び	学習と教育	1		◎				
		スタディスキルセミナー		1	▲				
		問題解決技法		1			▲		
		ボランティアワークセミナー		1			▲		
	専門基礎分野	形態機能学Ⅰ	1		◎				
		形態機能学Ⅱ	1		◎				
		形態機能学Ⅲ	1		◎				
		形態機能学Ⅳ	1		◎				
生化学(栄養学含)		1		◎					
病理学		1		◎					
臨床薬理学		1			◎				
感染免疫学		2		◎					
診断・治療学Ⅰ		2			◎				
診断・治療学Ⅱ		2			◎				
診断・治療学Ⅲ		2			◎				
臨床心理学		1				◎			
医療と法		1			◎				
保健統計学			1				△		
疫学			1				▲		
生涯発達論		2		◎					
社会保障論		1			◎				
チーム医療論		1					◎		



科目区分	授業科目	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界	1		◎				
	セルフディプロップメント	1		◎				
	キャリアディプロップメント	1			◎			
	医療チーム内のマネジメント	1				◎		
	医療以外の多職種との交流と発展	1					◎	
	キャリアマネジメント論		1					△
看護実践の基盤	看護学概論	1		◎				
	看護学援助論	1		◎				
	看護学技術論	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	1			◎			
	基礎看護学実習Ⅰ	1		◎				
	基礎看護学実習Ⅱ	1		◎				
	基礎看護学実習Ⅲ	2			◎			
	成人看護学概論	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅰ	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅱ	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅲ	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅳ	1			◎			
	成人看護学演習	1			◎			
	成人看護学実習Ⅰ	3					◎	
	成人看護学実習Ⅱ	3					◎	
	老年看護学概論	1			◎			
	老年看護学援助論	1			◎			
	老年看護学方法論	1			◎			
	老年看護学演習	1			◎			
	老年看護学実習Ⅰ	2					◎	
	老年看護学実習Ⅱ	2					◎	
	小児看護学概論	1			◎			
	小児看護学方法論Ⅰ	1			◎			
	小児看護学方法論Ⅱ	1			◎			
	小児看護学演習	1			◎			
	小児看護学実習	2					◎	
	母性看護学概論	1			◎			
	母性看護学方法論Ⅰ	1			◎			
	母性看護学方法論Ⅱ	1			◎			
	母性看護学演習	1			◎			
	母性看護学実習	2					◎	
	精神看護学概論	1			◎			
	精神看護学援助論	2			◎			
精神看護学演習	1			◎				
精神看護学実習	2						◎	
在宅看護学概論	1					◎		
在宅看護学方法論	2					◎		
在宅看護学演習	1					◎		
在宅看護学実習	2						◎	
医療安全論	1					◎		
災害看護学		1					▲	
看護倫理学		1					▲	
公衆衛生看護学概論	1					◎		

◎＝必修科目  
△及び▲＝選択科目  
(▲＝履修モデルにて選択)

専門分野

科目区分	授業科目	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
専門分野	統合実習Ⅰ	1					◎	◎＝必修科目 △及び▲＝選択科目 (▲＝履修モデルにて選択)
	統合実習Ⅱ	2					◎	
	助産学概論		1			△		
	基礎助産学Ⅰ		2			△		
	基礎助産学Ⅱ		2			△		
	健康教育技法		1			△		
	助産診断・技術学概論		1			△		
	助産診断・技術学方法論		1			△		
	助産診断・技術学演習Ⅰ		2					
	助産診断・技術学演習Ⅱ		1					
	助産診断・技術学演習Ⅲ		1					
	地域母子保健学		1			△		
	助産管理学		1					
	助産学実習		11					
	看護の探究Ⅰ		1	◎				
	看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)		5				▲	
	看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)		5				△	
	看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)		5				△	
	看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究)		5				△	
	看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究)		5				△	
看護の探究Ⅶ(精神看護学領域研究)		5				△		
看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)		5				△		
看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)		5				△		
必修科目修得単位				36単位	40単位	23単位	8単位	合計107単位
履修モデル上修得単位(推奨修得単位)				40単位	41単位	30単位	17単位	合計128単位

看護学科(助産学過程選択者) 履修モデル(2016年度～2021年度入学生)

科目区分	授業科目	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考	
		必修	選択						
教養分野	ものの見方・考え方	哲学	2		◎				
		科学と技術	1		◎				
		歴史学	1			◎			
		倫理学	1			◎			
		身体論	1		◎				
		生命倫理		1				▲	
		情報と人間	1			◎			
	生活と文化	情報活用演習		1				▲	
		家族と社会		1				▲	
		文学の中の人間		1				▲	
		法と人権		1			▲		
		生活と経済学		1				▲	
		文化と健康	1		◎				
		東京の中の多摩を知るセミナー		1	▲				
	人間と環境	芸術論		1				△	
		生物と進化		1	▲				
		生命科学	1		◎				
		物理学		1	▲				
	グローバルコミュニケーション	環境科学		1				△	
		コミュニケーション論	1		◎				
		日本語表現	1		◎				
		英語Ⅰ(読む・書く基礎Ⅰ)	1		◎				
		英語Ⅱ(読む・書く基礎Ⅱ)	1		◎				
		英語Ⅲ(医療英語)	1			◎			
		英語Ⅳ(日常会話)	1			◎			
		英語Ⅴ(英語論文読解)		1				▲	
		韓国語(基礎会話)		1				△	
	大学における学び	異文化体験セミナー		1				△	
		学習と教育	1		◎				
		スタディスキルセミナー		1	▲				
		問題解決技法		1				▲	
	専門基礎分野	ボランティアワークセミナー		1				▲	
		専門基礎科目	形態機能学Ⅰ	1		◎			
			形態機能学Ⅱ	1		◎			
			形態機能学Ⅲ	1		◎			
			形態機能学Ⅳ	1		◎			
生化学(栄養学含)			1		◎				
病理学			1		◎				
臨床薬理学			1			◎			
感染免疫学			2		◎				
診断・治療学Ⅰ			2			◎			
診断・治療学Ⅱ			2			◎			
診断・治療学Ⅲ			2			◎			
臨床心理学			1				◎		
医療と法			1			◎			
保健統計学				1				△	
疫学				1				△	
生涯発達論			2		◎				
社会保障論			1			◎			
チーム医療論			1					◎	

◎＝必修科目  
△及び▲＝選択科目  
(▲＝履修モデルにて選択)

科目区分	授業科目	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考
		必修	選択					
看護の専門職性の発展の基盤	専門職の世界	1		◎				
	セルフディプロップメント	1		◎				
	キャリアディプロップメント	1			◎			
	医療チーム内のマネジメント	1				◎		
	医療以外の多職種との交流と発展	1					◎	
	キャリアマネジメント論		1					△
看護実践の基盤	看護学概論	1		◎				
	看護学援助論	1		◎				
	看護学技術論	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅰ(生活援助技術)	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎				
	基礎看護学方法論Ⅳ(看護の計画的展開)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅰ(生活援助技術)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅲ(臨床看護技術)	1		◎				
	基礎看護学演習Ⅳ(看護の計画的展開)	1			◎			
	基礎看護学実習Ⅰ	1		◎				
	基礎看護学実習Ⅱ	1		◎				
	基礎看護学実習Ⅲ	2			◎			
	成人看護学概論	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅰ	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅱ	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅲ	1			◎			
	成人看護学方法論Ⅳ	1			◎			
	成人看護学演習	1			◎			
	成人看護学実習Ⅰ	3					◎	
	成人看護学実習Ⅱ	3					◎	
	老年看護学概論	1			◎			
	老年看護学援助論	1			◎			
	老年看護学方法論	1			◎			
	老年看護学演習	1			◎			
	老年看護学実習Ⅰ	2					◎	
	老年看護学実習Ⅱ	2					◎	
	小児看護学概論	1			◎			
	小児看護学方法論Ⅰ	1			◎			
	小児看護学方法論Ⅱ	1			◎			
	小児看護学演習	1			◎			
	小児看護学実習	2					◎	
	母性看護学概論	1			◎			
	母性看護学方法論Ⅰ	1			◎			
	母性看護学方法論Ⅱ	1			◎			
	母性看護学演習	1			◎			
	母性看護学実習	2					◎	
	精神看護学概論	1			◎			
	精神看護学援助論	2			◎			
精神看護学演習	1			◎				
精神看護学実習	2						◎	
在宅看護学概論	1					◎		
在宅看護学方法論	2					◎		
在宅看護学演習	1					◎		
在宅看護学実習	2						◎	
医療安全論	1					◎		
災害看護学		1					△	
看護倫理学		1					△	
公衆衛生看護学概論	1					◎		

専門分野

◎＝必修科目  
△及び▲＝選択科目  
(▲＝履修モデルにて選択)

科目区分	授業科目	単位数		1年次	2年次	3年次	4年次	備考	
		必修	選択						
専門分野	看護実践の基盤	統合実習Ⅰ	1				◎	◎＝必修科目 △及び▲＝選択科目 (▲＝履修モデルにて選択)	
		統合実習Ⅱ	2				◎		
		助産学概論		1			◎		
		基礎助産学Ⅰ		2			◎		
		基礎助産学Ⅱ		2			◎		
		健康教育技法		1			◎		
		助産診断・技術学概論		1			◎		
		助産診断・技術学方法論		1			◎		
		助産診断・技術学演習Ⅰ		2			◎		
		助産診断・技術学演習Ⅱ		1			◎		
		助産診断・技術学演習Ⅲ		1			◎		
		地域母子保健学		1			◎		
		助産管理学		1			◎		
		助産学実習		11					◎
	看護の探究の基盤	看護の探究Ⅰ	1		◎				
		看護の探究Ⅱ(基礎看護学領域研究)		5					
		看護の探究Ⅲ(成人看護学領域研究)		5					
		看護の探究Ⅳ(老年看護学領域研究)		5					
		看護の探究Ⅴ(小児看護学領域研究)		5					
		看護の探究Ⅵ(母性看護学領域研究)		5					
看護の探究Ⅶ(精神看護学領域研究)			5						
看護の探究Ⅷ(在宅看護学領域研究)			5						
看護の探究Ⅸ(助産学領域研究)		5				◎			
必修科目修得単位				36単位	40単位	37単位	24単位	合計137単位	
履修モデル上修得単位(推奨修得単位)				40単位	41単位	45単位	24単位	合計150単位	

【前期】

区分	日	月	火	水	木	金	土	学事日程
4月							1	【入学式】 4/1(土)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	【健康診断】 4/3(月)
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	【講義日程】 新生ガイダンス、集中講義 4/3(月)~4/8(土)
	30							※1年生は最初の1週間(4/3~4/8) を、ガイダンス及び集中講義を行う週と して設定しており、授業日数には含ん でいない。
5月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	前期授業期間 ■ 4/10(月)~8/5(土)
	21	22	23	24	25	26	27	前期前半科目試験期間 ■ 6/12(月)~6/13(火)
6月					1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	前期期末試験期間 ■ 8/7(月)~8/12(土)
	11	12	13	14	15	16	17	前期追・再試験期間 ■ 8/14(月)~8/19(土)
	18	19	20	21	22	23	24	
7月							1	【基礎看護学実習 I】 ■(1週間) 7/18(火)~7/21(金)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	【前期祝日】●は授業あり ●4/29(土) 昭和の日
	16	17	18	19	20	21	22	●5/3(水) 憲法記念日
	23	24	25	26	27	28	29	●5/4(木) みどりの日
	30	31						●5/5(金) こどもの日 ●7/17(月) 海の日 ●8/11(金) 山の日(試験期間)
8月			1	2	3	4	5	●9/18(月) 敬老の日
	6	7	8	9	10	11	12	●9/23(土) 秋分の日
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
9月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
授業日数	16	15	15	15	15	15	17	

【後期】

区分	日	月	火	水	木	金	土	学事日程
10月	1	2	3	4	5	6	7	【講義日程】 後期授業期間 ■ 10/2(月)~2/3(土)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	後期前半科目試験期間 ■ 12/6(水)~12/7(木)
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					後期期末試験期間 ■ 2/5(月)~2/10(土)
11月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	後期追・再試験期間 ■ 2/12(月)~2/17(土)
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	【後期祝日】●は授業あり ●10/9(月) スポーツの日
	26	27	28	29	30			●11/3(金) 文化の日 ●11/23(木) 勤労感謝の日 ●1/8(月) 成人の日 ●2/12(月) 建国記念の日振替休日 (追・再試験期間)
12月						1	2	2/23(金) 天皇誕生日
	3	4	5	6	7	8	9	3/20(水) 春分の日
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	【大学祭による臨時休講】 準備
1月								11/3(金) 文化の日
	1	2	3	4	5	6		大学祭
	7	8	9	10	11	12	13	11/4(土)
	14	15	16	17	18	19	20	片づけ
	21	22	23	24	25	26	27	11/5(日)
2月								【学則上の休業】 大学設置記念日10/24 夏季8/15~9/30 冬季12/25~1/6 春季3/21~3/31
	1	2	3					
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
3月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
授業日数	15	16	15	15	15	15	15	

【前期】

区分	日	月	火	水	木	金	土	学事日程
4月	1						1	【入学式】 4/1(土)
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	【健康診断】 4/1(土) 2~4年
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	【講義日程】 在校生ガイダンス 4/3(月)※授業日数含めず
	30							
5月	1	2	3	4	5	6		前期授業期間 ■ 4/4(火)~7/29(土)
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	前期前半科目試験期間 ■ 6/5(月)~6/6(火)
	21	22	23	24	25	26	27	前期期末試験期間 ■ 7/31(月)~8/5(土)
28	29	30	31					
6月	1	2	3					前期追・再試験期間: ■ 8/7(月)~8/12(土)
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	【臨地実習】■ 基礎看護学実習Ⅱ:7/24(月)~7/28(金)
	18	19	20	21	22	23	24	基礎看護学実習Ⅲ:8/21(月)~9/8(金)、9/11(月)~9/29(金)
25	26	27	28	29	30			
7月	1						1	【前期祝日】●は授業あり
	2	3	4	5	6	7	8	●4/29(土) 昭和の日
	9	10	11	12	13	14	15	5/3(水) 憲法記念日
	16	17	18	19	20	21	22	5/4(木) みどりの日
	23	24	25	26	27	28	29	5/5(金) こどもの日
	30	31						●7/17(月) 海の日 ●8/11(金) 山の日(再試験期間) ●9/18(月) 敬老の日(実習期間) ●9/23(土) 秋分の日(実習期間)
8月	1	2	3	4	5			
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
9月	1	2						
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
授業日数	14	15	15	15	15	16		

【後期】

区分	日	月	火	水	木	金	土	学事日程
10月	1	2	3	4	5	6	7	【講義日程】 後期授業期間 ■ 10/2(月)~2/3(土)
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	後期前半科目試験期間 ■ 12/6(水)~12/7(木)
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					後期期末試験期間 ■ 2/5(月)~2/10(土)
11月	1	2	3	4				後期追・再試験期間 ■ 2/12(月)~2/17(土)
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	【後期祝日】●は授業あり
	26	27	28	29	30			●10/9(月) スポーツの日 11/3(金) 文化の日 ●11/23(木) 勤労感謝の日 1/8(月) 成人の日 ●2/12(月) 建国記念の日振替休日 (追・再試験期間) 2/23(金) 天皇誕生日 3/20(水) 春分の日
12月	1	2						【大学祭による臨時休講】 準備
	3	4	5	6	7	8	9	11/3(金) 文化の日
	10	11	12	13	14	15	16	大学祭
	17	18	19	20	21	22	23	11/4(土)
	24	25	26	27	28	29	30	片づけ
31							11/5(日)	
1月	1	2	3	4	5	6		【学則上の休業】 大学設置記念日10/24 夏季8/15~9/30 冬季12/25~1/6 春季3/21~3/31
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31					
2月	1	2	3					
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29			
3月	1	2						
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
授業日数	15	16	15	15	15	15		







## 東京医療学院大学 履修に関する規程

### (目的)

第1条 この規定は、東京医療学院大学学則第10条第3項に基づき、授業科目の履修について必要な事項を定めることを目的とする。

### (授業時間割)

第2条 授業時間割は、年度又は学期の始めに明示する。

### (履修登録)

第3条 学生は、年度又は学期の始めに、所定の様式によって履修しようとする科目を登録しなければならない。

2 履修登録の手続がなされないときは、科目の履修及び単位の修得はできない。

### (履修方法)

第4条 履修方法の細部については、年度の始めに指導を行うものとする。学生は、指導に従って科目を履修しなければならない。

2 必修科目及び履修指導によって指示された科目は、当該年度において優先的に履修するものとする。

3 選択科目は、明示された時間割に示された当該年度において選択履修することを原則とする。

4 同一科目であっても、履修する学生数によって受講する組を編成することがある。指示された組で履修するものとし、他の組での受講はできない。

5 1年間の履修登録上限単位数を、リハビリテーション学科理学療法学専攻は42単位、同作業療法学専攻は44単位、看護学科は43単位とする。ただし看護学科の助産師課程選択者は47単位とする。

### (受講制限)

第5条 科目のうち、教室の都合によって受講人数の制限を行うことがある。

2 科目によっては、あらかじめ修得を必要とする科目を指定することがある。

### (他学科(専攻)の履修)

第6条 学生の所属する学科(専攻)にない他学科(専攻)の科目も履修することができる。ただし、この場合卒業に必要な単位として認定されるものは10単位までとする。

2 他学科(専攻)における科目の履修にあたっては、当該科目担当教員の承認を得なければならない。

### (履修の禁止)

第7条 次の場合には、履修登録することができない。

(1) 同一時限に2科目以上を履修すること

(2) すでに、単位を修得した科目と同一の科目を、再び履修すること

(3) 他の配当学年の科目を履修するに当たって、所属する学科長及び当該科目担当教員の承認が得られないとき

### (試験)

第8条 試験は、第3条第1項の規定によって登録した科目について、年度末又は学期末に行う。ただし、科目によっては当該担当教員が必要と認める適宜の時期に行うことがある。

2 試験は、筆記試験、実技試験、口述試験、論文、報告書又はこれらの併用によって行う。ただし、科目によっては、平常の成績考査をもって試験に代えることがある。

3 試験の日程、時間及び場所は、その都度明示する。

(受験制限)

第9条 次の者には、受験を認めない。

- (1) 学費等の未納者
- (2) 履修登録をしていない科目を受験しようとする者
- (3) 特別の理由なしに、科目への出席時間数とその総授業時間数の3分の2に満たない者

(試験不正行為への対処)

第10条 不正行為をしたと認められた者は学則第43条第3項第4号により懲戒し、学内に告示するとともに当該学期のすべての科目を無効とする。

(追試験, 再試験, 補習実習, 再実習)

第11条 定期試験を欠席した者は、試験欠席の事由を証明する書類及び追再試験受験願を明示日までに提出しなければならない。

- 2 定期試験を欠席した者に対し、欠席がやむを得ない事情であると認められた者に限り追試験を行う。
- 3 単位修得に必要な成績を得ていない履修者を対象として科目担当教員が再試験を行うことがある。ただし、履修者の授業出席状況、成績の程度などにより再試験対象者を制限することがある。
- 4 再試験の受験者は、所定の受験料を添えて追再試験受験願を明示日までに提出して受験許可を得なければならない。
- 5 看護学科において、届出欠席（欠席がやむを得ない事情であると認められた場合）により規定の実習時間が不足した場合に補習実習を認める。  
届出欠席以外で規定の実習時間が不足した場合、あるいは、単位修得に必要な成績を得ていない場合に再実習を認める。
- 6 看護学科において、再実習を受ける者は、所定の費用を添えて再実習願を明示日までに提出して再実習の許可を得なければならない。

(進級要件)

第11条-2 進級するために必要な要件を設けることができる。

- 2 前項の要件に関し、必要な事項は別に定める。

(臨床・臨地実習着手要件)

第12条 リハビリテーション学科は、評価実習、地域実習および総合臨床実習に着手するためには、規定の必修科目（別表）を全て修得していなければならない。ただし、この規定の必修科目のうち、D評価（不合格）の合計が3単位以下の者に限り、別に定める特別履修を受けることができる。

- 2 看護学科は、臨地実習に着手するためには、規定の必修科目（別表）の単位を修得していなければならない。

(卒業研究着手要件)

第13条 卒業研究に着手するためには、卒業研究を履修するまでに必修科目と選択科目とを合計して95単位以上を修得していなければならない。

- 2 卒業研究に着手しようとする者は、卒業研究題目、計画等を所属専攻長及び指導教員に提出し承認を得なければならない。

(卒業要件の単位数)

第14条 卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。

平成 28 年度入学生まで  
リハビリテーション学科  
(理学療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	26 単位	16 単位	10 単位
専門基礎科目	34 単位	31 単位	3 単位
専門科目	62 単位	62 単位	0 単位
合計	126 単位	113 単位	13 単位

(作業療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	23 単位	15 単位	8 単位
専門基礎科目	34 単位	31 単位	3 単位
専門科目	65 単位	65 単位	0 単位
合計	126 単位	115 単位	11 単位

看護学科

科目	合計	必修	選択
教養分野	29 単位	16 単位	13 単位
専門基礎分野	99 単位	21 単位	8 単位
専門分野		70 単位	
合計	128 単位	107 単位	21 単位

(助産師課程選択者)

科目	合計	必修	選択
教養分野	29 単位	16 単位	13 単位
専門基礎分野	21 単位	21 単位	—
専門分野	100 単位	100 単位	—
合計	150 単位	137 単位	13 単位

平成 29 年度入学生から平成 31 年度入学生まで  
リハビリテーション学科

(理学療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	25 単位	15 単位	10 単位
専門基礎科目	35 単位	32 単位	3 単位
専門科目	62 単位	62 単位	0 単位
合計	126 単位	113 単位	13 単位

(作業療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	22 単位	14 単位	8 単位
専門基礎科目	35 単位	32 単位	3 単位
専門科目	65 単位	65 単位	0 単位
合計	126 単位	115 単位	11 単位

看護学科

科目	合計	必修	選択
教養分野	29 単位	16 単位	13 単位
専門基礎分野	99 単位	21 単位	8 単位
専門分野		70 単位	
合計	128 単位	107 単位	21 単位

(助産師課程選択者)

科目	合計	必修	選択
教養分野	29 単位	16 単位	13 単位
専門基礎分野	21 単位	21 単位	—
専門分野	100 単位	100 単位	—
合計	150 単位	137 単位	13 単位

令和 2 年度入学生から令和 3 年度入学生まで

リハビリテーション学科

(理学療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	20 単位	15 単位	5 単位
専門基礎科目	36 単位	34 単位	2 単位
専門科目	66 単位	66 単位	0 単位
合計	126 単位	119 単位	7 単位

(作業療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	17 単位	14 単位	3 単位
専門基礎科目	38 単位	36 単位	2 単位
専門科目	67 単位	67 単位	0 単位
合計	126 単位	121 単位	5 単位

看護学科

科目	合計	必修	選択
教養分野	29 単位	16 単位	13 単位
専門基礎分野	99 単位	21 単位	8 単位
専門分野		70 単位	
合計	128 単位	107 単位	21 単位

(助産師課程選択者)

科目	合計	必修	選択
教養分野	29 単位	16 単位	13 単位
専門基礎分野	21 単位	21 単位	—
専門分野	100 単位	100 単位	—
合計	150 単位	137 単位	13 単位

令和 4 年度入学生から

リハビリテーション学科

(理学療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	20 単位	15 単位	5 単位
専門基礎科目	36 単位	34 単位	2 単位
専門科目	66 単位	66 単位	0 単位
合計	126 単位	119 単位	7 単位

(作業療法学専攻)

科目	合計	必修	選択
特色科目	4 単位	4 単位	0 単位
教養科目	17 単位	14 単位	3 単位
専門基礎科目	38 単位	36 単位	2 単位
専門科目	67 単位	67 単位	0 単位
合計	126 単位	121 単位	5 単位

看護学科

科目	合計	必修	選択
教養分野	17 単位	12 単位	5 単位
専門基礎分野	107 単位	29 単位	2 単位
専門分野		76 単位	
合計	124 単位	117 単位	7 単位

(助産師課程選択者)

科目	合計	必修	選択
教養分野	17 単位	12 単位	5 単位
専門基礎分野	29 単位	29 単位	—
専門分野	103 単位	103 単位	—
合計	149 単位	144 単位	5 単位

(改廃)

第 15 条 この規程の改廃は、学長の決裁を必要とする。

附 則

この規則は、平成 24 年 4 月 2 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する

ただし第 12 条の改正事項については平成 30 年度入学生から適用する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する

附 則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

ただし第 11 条-2 の追加事項及び第 12 条の改正事項については令和 4 年度入学生から適用する。

附 則

1 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

2 令和 4 年度看護学科の入学生に対し、別表「基礎看護学実習Ⅱ」の着手要件は適用しない。

ただし令和 5 年度のみ措置とする。

【理学療法学専攻】

評価実習				総合臨床実習
生命倫理	運動学実習	理学療法学概論 1 (理学療法導入論)	日常生活活動学 (理学療法)	理学療法技術論C (小児中枢神経系)
人間発達学	病理学概論	理学療法評価学A (四肢周径・バイタルサイン等評価)	日常生活活動学演習 (理学療法)	理学療法技術論D (神経筋疾患)
コミュニケーション論	内科学	理学療法評価学A 演習 (四肢周径・バイタルサイン等評価)	物理療法学	理学療法技術論E (循環器・代謝系)
医療安全管理	整形外科学	理学療法評価学B (関節可動域・筋力等評価)	物理療法学演習	理学療法技術論F (呼吸器系)
解剖学 (人体の構造)	神経内科学	理学療法評価学B 演習 (関節可動域・筋力等評価)	義肢学 (理学療法)	運動療法D (外傷性疾患運動療法)
解剖学A演習 (運動器・神経系)	精神医学	理学療法評価学C (障害別評価)	臨床見身体験実習 (理学療法)	運動療法E (中枢神経系運動療法)
解剖学B演習 (内臓・脈管系)	小児科学	理学療法評価学C 演習 (障害別評価)		装具学 (理学療法)
生理学	脳神経外科学	理学療法技術論A (成人中枢神経系疾患)		地域リハビリテーション学
生理学演習	医用画像解析学概論	理学療法技術論B (運動器系)		地域理学療法学
生理学実習	リハビリテーション概論	運動療法A (基礎運動療法)		評価実習 (理学療法)
運動学	リハビリテーション医学	運動療法B (病態運動療法)		
運動学演習	リハビリテーション チームワーク概論	運動療法C (運動器系運動療法)		

平成 29 年度～平成 31 年度入学生

【理学療法学専攻】

評価実習				総合臨床実習
生命倫理	運動学演習	リハビリテーション チームワーク概論	運動療法学 (運動器系)	理学療法技術論C (小児中枢神経系)
人間発達学	運動学実習	理学療法学概論1 (理学療法導入論)	日常生活活動学 (理学療法)	理学療法技術論D (神経筋疾患)
コミュニケーション論	内科学	理学療法評価学A (四肢周径・バイタルサイン等評価)	日常生活活動学演習 (理学療法)	理学療法技術論E (循環器・代謝系)
医療安全管理	病理学概論	理学療法評価学A演習 (四肢周径・バイタルサイン等評価)	物理療法学	理学療法技術論F (呼吸器系)
解剖学 (人体の構造)	整形外科学	理学療法評価学B (関節可動域・筋力等評価)	物理療法学演習	運動療法学 (外傷性疾患)
解剖学A演習 (骨学・筋学・神経系)	神経内科学	理学療法評価学B演習 (関節可動域・筋力等評価)	装具学 (理学療法)	運動療法 (中枢神経系)
解剖学B演習 (内臓・脈管系)	精神医学	理学療法評価学C (障害別評価)	臨床見身体験実習 (理学療法)	義肢学 (理学療法)
生理学 (細胞生理学・循環・呼吸系)	小児科学	理学療法評価学C演習 (障害別評価)		地域リハビリテーション学
生理学A演習 (神経系・運動機能)	脳神経外科学	理学療法技術論A (成人中枢神経系疾患)		地域理学療法学
生理学B演習 (運動の中枢性制御、 消化・吸収・排泄系)	医用画像解析学 概論	理学療法技術論B (運動器系)		評価実習 (理学療法)
生理学実習	リハビリテーション 概論	運動療法学 (基礎)		
運動学	リハビリテーション 医学	運動療法学 (病態)		



平成 29 年度～平成 31 年度入学生

【作業療法学専攻】

評価実習					
共通				身体障害領域 評価実習	精神障害領域 評価実習
大学導入論	公衆衛生学	運動学実習	リハビリテーション チームワーク概論	作業療法評価学 A (身体)	精神医学
ボランティア入門	医療安全管理	臨床心理学	作業療法学概論	作業療法評価学 A 演習 (身体)	作業療法評価学 B (精神)
生命倫理	解剖学 (人体の構造)	病理学概論	基礎作業学概論	作業療法評価学 C (発達)	作業療法評価学 B 演習 (精神)
学びの技法	解剖学 A 演習 (骨学・筋学・神経系)	内科学	基礎作業学演習 A (作業別技法)	作業療法評価学 C 演習 (発達)	精神障害作業療法治療学 1 (精神機能回復理論)
心理学概論	解剖学 B 演習 (内臓学・心脈管系)	整形外科	基礎作業学演習 B (作業分析等)	身体障害作業療法治療学 1 (身体機能回復理論)	
人間発達学	生理学 (細胞生理学、 循環・呼吸系)	神経内科学	作業療法学研究法	発達期障害作業療法 治療学	
情報処理 (応用)	生理学 A 演習 (神経系・運動機能)	小児科学	日常生活活動学 (作業療法)	老年期作業療法 治療学	
自然科学基礎	生理学 B 演習 (運動の中枢性制御 消化・吸収・排泄系)	脳神経外科学	地域の保健医療福祉 (作業療法)	高次脳機能障害 作業療法治療学	
コミュニケーション論	生理学実習	医用画像解析学概論	臨床見学体験実習 (作業療法)	義肢学 (作業療法)	
カウンセリング入門	運動学	リハビリテーション概論			
保健医療英語入門	運動学演習	リハビリテーション医学			
総合臨床実習					
共通			身体障害領域総合臨床実習		精神障害領域 総合臨床実習
統計学	装具学 (作業療法)	地域作業療法学	身体障害作業療法治療学 2 (疾患別治療学)	老年期作業療法 治療学演習	精神障害作業療法治療学 2 (疾患別治療学)
作業療法管理法	職業関連作業療法学		身体障害作業療法 治療学演習	高次脳機能障害作業療法 治療学演習	精神障害作業療法 治療学演習
日常生活活動学演習 (作業療法)	地域 リハビリテーション学		発達期作業療法 治療学演習	身体障害領域評価実習 (作業療法)	精神障害領域評価実習 (作業療法)

令和2年度入学生より

【理学療法学専攻】

評価実習				総合臨床実習
生命倫理	運動学演習 (理学療法)	リハビリテーション概論	運動療法学 (基礎)	保健医療制度概論
人間発達学	運動学実習 (理学療法)	リハビリテーション医学	運動療法学 (病態)	理学療法評価学D (画像評価)
コミュニケーション論	内科学	多職種連携論	運動療法学 (運動器系)	理学療法技術論C (小児中枢神経系)
医療安全管理	病理学概論	理学療法学概論1 (理学療法導入論)	日常生活活動学 (理学療法)	理学療法技術論D (神経筋疾患)
解剖学 (人体の構造)	薬理学	理学療法評価学A (四肢周径・バイタルサイン等評価)	日常生活活動学演習 (理学療法)	理学療法技術論E (循環器・代謝系)
解剖学A演習 (骨学・筋学・神経系)	整形外科学	理学療法評価学A演習 (四肢周径・バイタルサイン等評価)	物理療法学	理学療法技術論F (呼吸器系)
解剖学B演習 (内臓・脈管系)	神経内科学	理学療法評価学B (関節可動域・筋力等評価)	物理療法学演習	運動療法学 (外傷性疾患)
生理学 (細胞生理学、 循環・呼吸系)	精神医学1	理学療法評価学B演習 (関節可動域・筋力等評価)	装具学 (理学療法)	運動療法学 (中枢神経系)
生理学A演習 (神経系・運動機能)	小児科学	理学療法評価学C (障害別評価)	臨床見学体験実習 (理学療法)	義肢学 (理学療法)
生理学B演習 (運動の中枢性制御、 消化・吸収・排泄系)	脳神経外科学	理学療法評価学C演習 (障害別評価)		地域リハビリテーション学
生理学実習	栄養学	理学療法技術論A (成人中枢神経系疾患)		地域理学療法学
運動学	医用画像解析学	理学療法技術論B (運動器系)		評価実習 (理学療法)
<b>地域理学療法実習</b>				
評価実習 (理学療法)		地域リハビリテーション学		地域理学療法学

令和2年度入学生より

【作業療法学専攻】

評価実習（身体障害領域・精神障害領域）					
大学導入論	公衆衛生学	臨床心理学	多職種連携論	作業療法評価学A （身体）	精神医学1
ボランティア入門	医療安全管理	病理学概論	地域の保健医療福祉 （作業療法）	作業療法評価学A演習 （身体）	精神医学2
生命倫理	解剖学 （人体の構造）	薬理学	作業療法学概論	作業療法評価学C （発達）	作業療法評価学B （精神）
学びの技法	解剖学A演習 （骨学・筋学・神経系）	内科学	基礎作業学概論	身体障害作業療法 治療学1 （身体機能回復理論）	作業療法評価学B演習 （精神）
心理学概論	解剖学B演習 （内臓・脈管系）	整形外科	基礎作業学演習A （作業別技法）	発達期障害作業療法 治療学	精神障害作業療法 治療学1 （精神機能回復理論）
人間発達学	生理学 （細胞生理学、 循環・呼吸系）	神経内科学	基礎作業学演習B （作業分析等）	老年期 作業療法治療学	精神障害作業療法 治療学2 （疾患別治療学）
情報処理（応用）	生理学A演習 （神経系・運動機能）	小児科学	作業療法学研究法	高次脳機能障害 作業療法治療学	作業療法管理学
自然科学基礎	生理学B演習 （運動の中枢性制御消 化・吸収・排泄系）	脳神経外科学	リハビリテーション 概論	義肢学 （作業療法）	保健医療英語入門
統計学	生理学実習	医用画像解析学	日常生活活動学 （作業療法）	職業関連作業療法学	リハビリテーション 医学
コミュニケーション論	運動学	栄養学	カウンセリング入門	運動学演習 （作業療法）	運動学実習 （作業療法）
臨床見学体験実習 （作業療法）					
地域作業療法実習					
身体障害領域 評価実習（作業療法）	精神障害領域 評価実習（作業療法）	地域 リハビリテーション学	地域作業療法学	身体障害作業療法 治療学2 （疾患別治療学）	身体障害作業療法治療 学演習
精神障害作業療法 治療学演習	老年期作業療法 治療学演習	高次脳機能障害 作業療法治療学演習	日常生活活動学演習 （作業療法）	作業療法評価学D（画 像評価）	装具学（作業療法）
総合臨床実習（身体障害領域・精神障害領域）					
身体障害領域評価実習 （作業療法）	精神障害領域評価実習 （作業療法）	地域作業療法実習			

平成 30 年度入学生～令和 3 年度入学生

【看護学科】

成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習
成人看護学方法論Ⅰ	老年看護学援助論	小児看護学概論	母性看護学概論	精神看護学概論	在宅看護学概論
成人看護学方法論Ⅱ	老年看護学演習	小児看護学方法論Ⅰ	母性看護学方法論Ⅰ	精神看護学援助論	在宅看護学方法論
成人看護学方法論Ⅲ		小児看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅱ	精神看護学演習	
成人看護学方法論Ⅳ		小児看護学演習	母性看護学演習		

※ 領域別看護学実習に着手するためには、基礎看護学実習Ⅲ及び規定の必修科目（上表）の単位を修得していなければならない。

令和 4 年度入学生より

【看護学科】

基礎看護学実習Ⅱ				
生命科学	形態機能学Ⅰ	形態機能学Ⅱ	形態機能学Ⅲ	形態機能学Ⅳ
生化学	病理学	感染免疫学	診断・治療学総論	生涯発達論
看護学概論	看護学援助論	基礎看護学方法論Ⅰ	基礎看護学方法論Ⅱ	基礎看護学方法論Ⅲ
基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅲ	地域生活看護学演習	地域・在宅看護学概論
基礎看護学実習Ⅰ				

基礎看護学実習Ⅲ				
基礎看護学方法論Ⅳ	基礎看護学演習Ⅳ	基礎看護学実習Ⅱ		

成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
家族と社会	臨床薬理学	診断・治療学Ⅰ	診断・治療学Ⅱ	診断・治療学Ⅲ
医療と法	生命倫理	社会保障論	臨床心理学	公衆衛生学
基礎看護学実習Ⅲ	医療安全論	看護倫理学	看護管理学	子一ム医療論
公衆衛生看護学概論	成人看護学概論	成人看護学援助論Ⅰ	成人看護学援助論Ⅱ	成人看護学演習

老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
家族と社会	臨床薬理学	診断・治療学Ⅰ	診断・治療学Ⅱ	診断・治療学Ⅲ
医療と法	生命倫理	社会保障論	臨床心理学	公衆衛生学
基礎看護学実習Ⅲ	医療安全論	看護倫理学	看護管理学	子一ム医療論
公衆衛生看護学概論	老年看護学概論	老年看護学援助論	老年看護学演習	

小児看護学実習				
家族と社会	臨床薬理学	診断・治療学Ⅰ	診断・治療学Ⅱ	診断・治療学Ⅲ
医療と法	生命倫理	社会保障論	臨床心理学	公衆衛生学
基礎看護学実習Ⅲ	医療安全論	看護倫理学	看護管理学	于一人医療論
公衆衛生看護学概論	小児看護学概論	小児看護学援助論	小児看護学演習	

母性看護学実習				
家族と社会	臨床薬理学	診断・治療学Ⅰ	診断・治療学Ⅱ	診断・治療学Ⅲ
医療と法	生命倫理	社会保障論	臨床心理学	公衆衛生学
基礎看護学実習Ⅲ	医療安全論	看護倫理学	看護管理学	于一人医療論
公衆衛生看護学概論	母性看護学概論	母性看護学援助論	母性看護学演習	

精神看護学実習				
家族と社会	臨床薬理学	診断・治療学Ⅰ	診断・治療学Ⅱ	診断・治療学Ⅲ
医療と法	生命倫理	社会保障論	臨床心理学	公衆衛生学
基礎看護学実習Ⅲ	医療安全論	看護倫理学	看護管理学	于一人医療論
公衆衛生看護学概論	精神看護学概論	精神看護学援助論	精神看護学演習	

地域・在宅看護学実習				
家族と社会	臨床薬理学	診断・治療学Ⅰ	診断・治療学Ⅱ	診断・治療学Ⅲ
医療と法	生命倫理	社会保障論	臨床心理学	公衆衛生学
基礎看護学実習Ⅲ	医療安全論	看護倫理学	看護管理学	于一人医療論
公衆衛生看護学概論	地域・在宅看護学援助論	地域・在宅看護学演習		

統合実習Ⅰ・Ⅱ				
成人看護学実習Ⅰ	成人看護学実習Ⅱ	老年看護学実習Ⅰ	老年看護学実習Ⅱ	小児看護学実習
母性看護学実習	精神看護学実習	地域・在宅看護学実習		

助産学実習				
成人看護学実習Ⅰ	成人看護学実習Ⅱ	老年看護学実習Ⅰ	老年看護学実習Ⅱ	小児看護学実習
母性看護学実習	精神看護学実習	地域・在宅看護学実習		
助産学概論	基礎助産学	健康教育技法	地域母子保健学	助産診断・技術学概論
助産診断・技術学Ⅰ	助産診断・技術学Ⅱ	助産診断・技術学演習	助産管理学	



2023年度特別開講科目一覧(2016年度～2021年度入学生適用カリキュラム)

科目名	ナンバリング(旧カリキュラム用)	開講する学年	開講する期
成人看護学方法論Ⅳ(旧カリキュラム)	HN52225	3	前期
老年看護学援助論(旧カリキュラム)	HN52130	3	前期
老年看護学演習(旧カリキュラム)	HN52232	3	前期
小児看護学方法論Ⅱ(旧カリキュラム)	HN52237	3	前期
小児看護学演習(旧カリキュラム)	HN52238	3	前期
母性看護学方法論Ⅰ(旧カリキュラム)	HN52141	3	前期
母性看護学方法論Ⅱ(旧カリキュラム)	HN52242	3	前期
母性看護学演習(旧カリキュラム)	HN52243	3	前期